

—茨城県土浦市—

令和3年度
土浦市内遺跡発掘調査報告書

2023

土浦市教育委員会

—茨城県土浦市—

令和3年度

つちうらしないいせきはつくつちょうさほうこくしよ
土浦市内遺跡発掘調査報告書

2023

土浦市教育委員会

序

土浦市は、霞ヶ浦や桜川といった自然環境に恵まれた都市です。貝塚や古墳など数多くの遺跡が立地し、古くから人々の暮らしが営まれてきました。これらの遺跡は、昔の生活や文化を現代の私たちに伝えてくれる貴重な遺産といえます。このような貴重な文化遺産を保護し後世に伝えることは、私たちの重要な責務であり、郷土の発展のためにも大切なことでもあります。

本書は令和3年度に行われた、試掘確認調査と発掘調査の報告書です。令和3年度は、市内40か所において開発等に先立つ試掘確認調査が実施されました。そのうち3か所については、発掘調査が行われました。これらの調査の成果が、学術的な研究資料としてはもちろんのこと、土浦市の歴史・文化の究明に役立つことができれば幸いです。

この度の調査から報告書刊行にあたり、お世話になりました関係者の皆様のご協力とご支援に対し、心から厚くお礼を申し上げます。

令和5年3月

土浦市教育委員会
教育長 入野 浩美

例 言

- 1 本書は、令和3（2021）年度に実施した市内遺跡の調査報告書であり、国庫補助事業として行った。
- 2 調査は、土浦市教育委員会が実施した。試掘確認調査は、関口満（文化振興課学芸員）、比毛君男・亀井翼（上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員）が担当し、一木絵理（同）、小屋亮太（同会計年度任用職員）、鬼脇正臣（文化振興課主任）が補佐した。発掘調査は、それぞれの調査報告の例言に記した。
- 3 本書の執筆・編集は、黒澤春彦（上高津貝塚ふるさと歴史の広場再任用職員）、石田温美・浅野孝利（同会計年度任用職員）が中心に行い、比毛君男、一木絵理、亀井翼（文化振興課学芸員）が補佐した。
- 4 本調査の資料は、上高津貝塚ふるさと歴史の広場が保管する。

凡 例

- 1 第1章の表について、調査範囲が未周知及び、多くが未周知箇所に掛かる調査は、試掘確認調査とした。
- 2 挿図中の記号や線は以下のとおりである。
Tr：トレンチ SI：竪穴建物跡・竪穴遺構 SK：土坑 P：ピット M：土器埋設炉 K：攪乱
———：開発範囲 - - - - -：建物建築範囲 ———：既存建物 - - - - -：遺跡範囲 ■■■■■：遺構

目 次

序

例言 凡例 目次

第1章 令和3年度調査の概要	1
第2章 調査	4
第1節 試掘確認調査・確認調査	4
1 中高津西原遺跡隣接地	4
2 下高津小学校遺跡	5
3 形部遺跡隣接地	6
4 宮脇B遺跡	7
5 大畑本田遺跡	8
6 神立遺跡	9
7 中高津西原遺跡	10
8 永井寄居窯跡隣接地	11
9 天神平遺跡 坪内遺跡	12
10 前神田遺跡	14
11 下高津小学校遺跡	16
12 御霊遺跡隣接地	17
13 下高津小学校遺跡	18
14 松原遺跡	19
15 前神田遺跡	20
16 西原遺跡	21
17 形部遺跡	22
18 蟹久保遺跡	23
19 神立八幡遺跡	24
20 西谷津西遺跡	25
21 下高津小学校遺跡	26
22 形部遺跡	27

23	大畑本田遺跡	28	32	天神平遺跡 坪内遺跡	38
24	西谷津西遺跡	29	33	谷原門B遺跡隣接地	39
25	松山遺跡	30	34	天神遺跡	40
26	土浦城跡	31	35	土浦城跡	42
27	神立遺跡	32	36	霞ヶ岡遺跡	44
28	ビヤ首遺跡	33	37	小高石橋遺跡	45
29	出シ山遺跡	34	38	藤沢陣場遺跡	47
30	矢作遺跡	35	39	永国御灵遺跡隣接地	48
31	下高津小学校遺跡	36	40	虫掛二又遺跡	49
第2節 発掘調査		50			
41	下高津小学校遺跡 (第5次調査)	50			
42	大畑本田遺跡 (第2次調査)	53			
43	形部遺跡 (第2次調査)	59			

写真図版

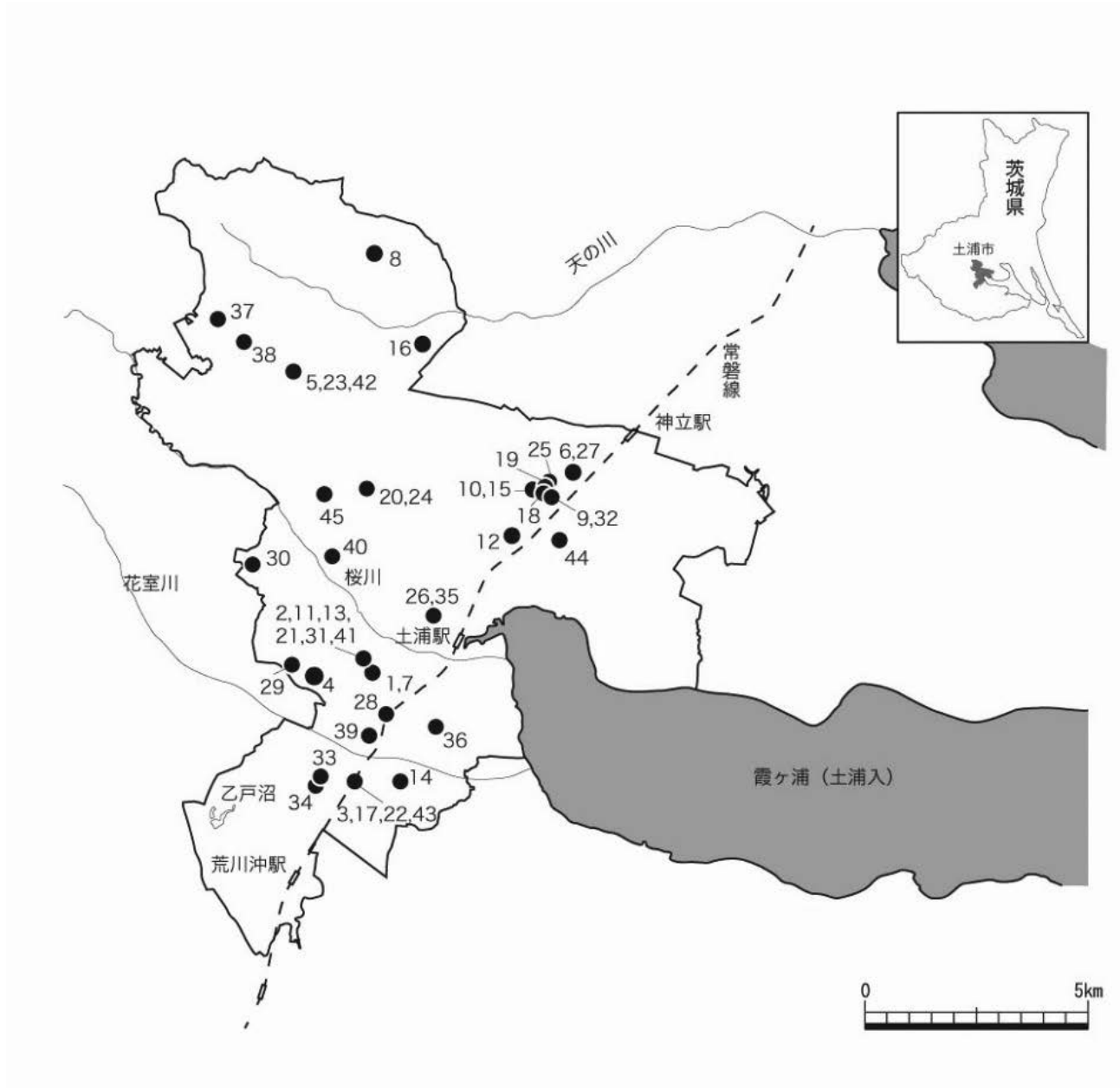
報告書抄録

写真図版

- PL 1 下高津小学校遺跡 (第5次調査)
- PL 2 大畑本田遺跡 (第2次調査)
- PL 3 大畑本田遺跡 (第2次調査) 出土遺物
- PL 4 大畑本田遺跡 (第2次調査) 出土遺物
- PL 5 形部遺跡 (第2次調査)
- PL 6 形部遺跡 (第2次調査) 出土遺物

第1章 令和3年度調査の概要

令和3年度は、試掘確認調査と確認調査40件、個人住宅建築に伴う発掘調査3件を実施した。試掘確認調査や確認調査は、市東部の上大津地区や南部の荒川沖、乙戸周辺を除く全域で実施し、特に神立町（神立遺跡、前神田遺跡、坪内遺跡など）9件、下高津四丁目（下高津小学校遺跡）5件と、これらのエリアの集中がみられる。事業では、個人住宅建築が21件と全体の70%を占める。多くは盛土保存対応となったが、保存が図れない事業については発掘調査となった。本書では、個人住宅建築に伴う発掘調査3件について報告する。



調査位置図（番号は表と本部のNo. に対応）

令和3年度 試掘確認調査 確認調査一覧

NO	遺跡名	所在地	区分	調査原因	調査期間
1	中高津西原遺跡隣接地	中高津二丁目	試掘・確認調査	宅地分譲	4月15日
2	下高津小学校遺跡	下高津四丁目	確認調査	個人住宅建築	4月23日
3	形部遺跡隣接地	右糶	試掘・確認調査	個人住宅建築	4月27日
4	宮脇B遺跡	上高津	確認調査	アパート建築	4月28日
5	大畑本田遺跡	大畑	確認調査	個人住宅建築	5月7日
6	神立遺跡	神立町	試掘・確認調査	太陽光発電	5月12・14日
7	中高津西原遺跡	中高津二丁目	確認調査	個人住宅建築	5月25日
8	永井寄居窯跡隣接地	永井	試掘・確認調査	埋立工事	5月28日
9	天神平遺跡・坪内遺跡	神立町	試掘・確認調査	宅地造成	6月1・2日
10	前神田遺跡	神立町	確認調査	宅地造成	6月17・18・21日
11	下高津小学校遺跡	下高津四丁目	確認調査	個人住宅建築	7月15日
12	御霊遺跡隣接地	木田余	試掘・確認調査	個人住宅建築	7月15日
13	下高津小学校遺跡	下高津四丁目	確認調査	学校設備工事	7月28日
14	松原遺跡	右糶	確認調査	個人住宅建築	8月6日
15	前神田遺跡	神立町	確認調査	宅地造成	8月12日
16	西原遺跡	栗野町	確認調査	個人住宅建築	8月19日
17	形部遺跡	右糶	確認調査	個人住宅建築	8月25日
18	蟹久保遺跡	神立町	確認調査	個人住宅建築	9月10日
19	神立八幡遺跡	神立町	確認調査	個人住宅建築	9月14日
20	西谷津西遺跡	西並木町	確認調査	個人住宅建築	9月24日
21	下高津小学校遺跡	下高津四丁目	確認調査	個人住宅建築	9月28日
22	形部遺跡	右糶	確認調査	個人住宅建築	9月30日
23	大畑本田遺跡	大畑	確認調査	個人住宅建築	10月28日
24	西谷津西遺跡	西並木町	確認調査	個人住宅建築	11月5日
25	松山遺跡	神立町	確認調査	宅地分譲	11月10・12日
26	土浦城跡	中央一丁目	確認調査	個人住宅建築	11月19日
27	神立遺跡	神立町	確認調査	個人住宅建築	11月24日
28	ビヤ首遺跡	中高津一丁目	確認調査	宅地分譲	11月26日
29	出シ山遺跡	上高津	試掘・確認調査	工場建築	11月31日 12月2・3日
30	矢作遺跡	矢作	確認調査	個人住宅建築	12月14日
31	下高津小学校遺跡	下高津四丁目	確認調査	戸建住宅建築	12月15日
32	天神平遺跡・坪内遺跡	神立町	確認調査	宅地分譲	12月21日
33	谷原門B遺跡隣接地	中	試掘・確認調査	倉庫建築	1月6日

NO	遺跡名	所在地	区分	調査原因	調査期間
34	天神遺跡	中	確認調査	宅地分譲	1月13・14日
35	土浦城跡（本丸）	中央一丁目	確認調査	塀跡確認	1月19～21日
36	霞ヶ岡遺跡	霞ヶ岡町	確認調査	宅地分譲	2月8日
37	小高石橋遺跡	小高	確認調査	太陽光発電	2月22・24・25日 3月1・2・4日
38	藤沢陣場遺跡	小高	試掘・確認調査	個人住宅建築	3月9日
39	永国御灵遺跡隣接地	永国	試掘・確認調査	個人住宅建築	3月10日
40	虫掛二又遺跡	虫掛	試掘・確認調査	県圃場整備	3月16・17・23
41	下高津小学校遺跡(第5次)	下高津四丁目	発掘調査	個人住宅建築	5月25日～29日
42	大畑本田遺跡（第2次）	大畑	発掘調査	個人住宅建築	7月7日～29日
43	形部遺跡（第2次）	右糶	発掘調査	個人住宅建築	12月7日～14日

第2章 調査

第1節 試掘確認調査・確認調査

1. 中高津西原遺跡 (203 - 098) 隣接地

所在地 土浦市中高津二丁目 238 - 2

現況 荒蕪地

立地 桜川右岸の台地上。標高 22 ~ 23 m。

原因 宅地分譲

調査日 令和3年4月15日

調査面積 42.5㎡

調査概要

トレンチは4本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約35cmである。1本のトレンチから、時期不明の落ち込み1基が検出された。遺物は、縄文時代前期の土器、土師器が出土した。

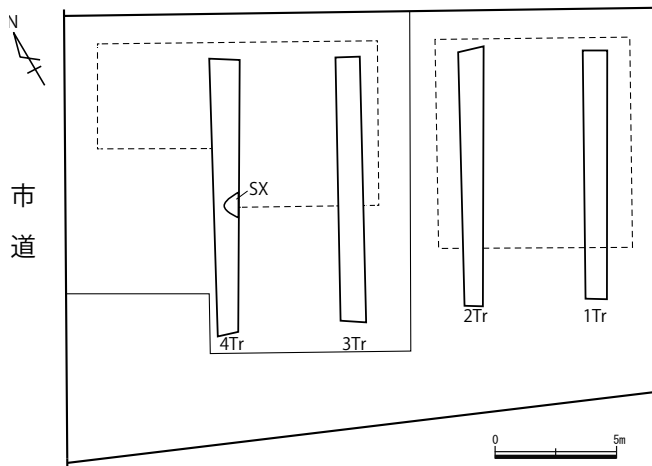
措置 遺構未検出のため、慎重工事を依頼した。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



1 トレンチ



3 トレンチ



4 トレンチ

2. 下高津小学校遺跡 (203 - 100)

所在地 土浦市下高津四丁目 734 - 17 外

現況 荒蕪地

立地 桜川右岸の台地上。標高 23m。

原因 個人住宅建築

調査日 令和3年4月23日

調査面積 50㎡

調査概要

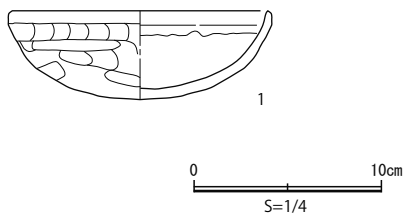
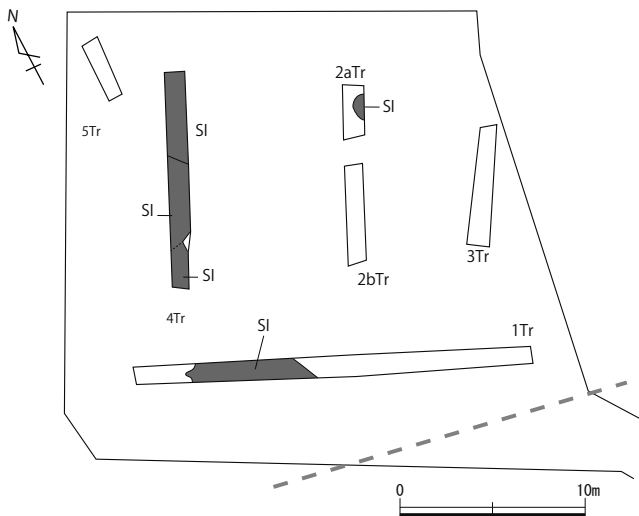
トレンチは6本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約 60～100cmである。トレンチから、古墳時代後期の竪穴建物1軒、平安時代の竪穴建物3軒、時期不明の竪穴建物1軒が検出された。遺物は、古墳時代の土師器杯、支脚、平安時代の土師器甕、近世の陶器片が出土した。1は1トレンチ出土の古墳時代後期の土師器杯である。措置 切土部分について発掘調査実施（本書第2章第2節41）。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



出土遺物実測図



全景



4 トレンチ

3. 形部遺跡 (203 - 469) 隣接地

所在地 土浦市右廻 1111 番 1 の一部
現況 荒蕪地
立地 花室川右岸の台地上。標高 25 m。
原因 個人住宅建築
調査日 令和 3 年 4 月 27 日
調査面積 8.51m²
調査概要

トレンチは 12 本設定した。遺構確認面はローム層
上面で、地表面からの深さは約 50cm である。4 本の
トレンチから、古墳時代後期の竪穴建物跡 2 軒、平
安時代の竪穴建物跡 2 軒が検出された。遺物は、古
墳時代後期の土師器が出土した。

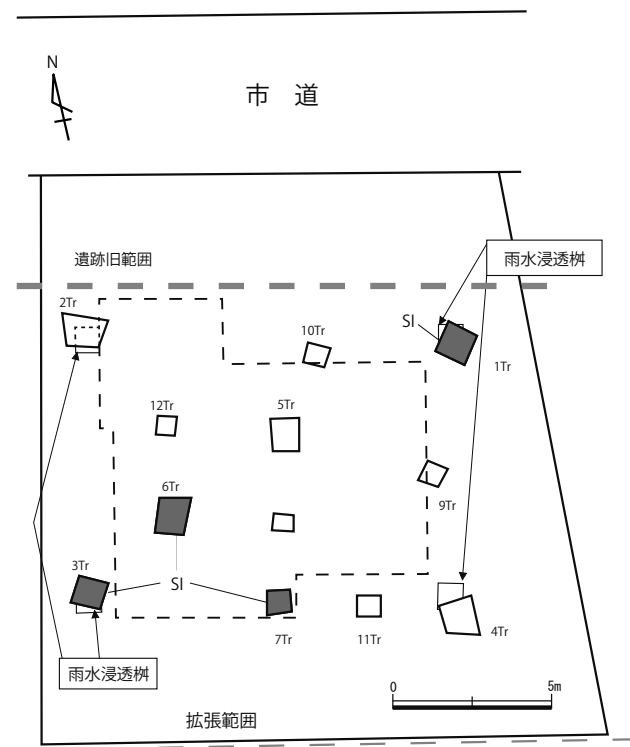
措置 遺跡範囲拡張。保護層を設け保存。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



全景

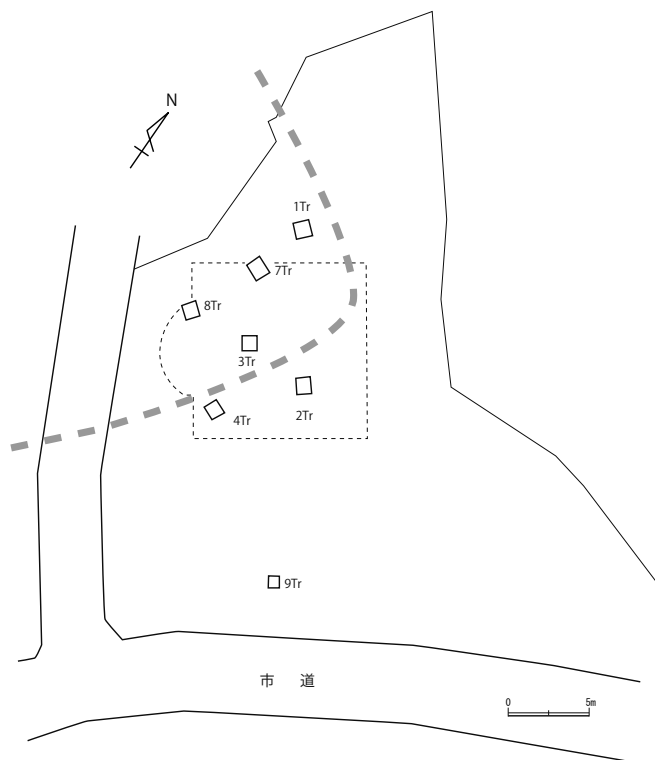


6 トレンチ

4. 宮脇B遺跡 (203 - 122)

所在地 土浦市上高津 1211 - 1 外
現況 荒蕪地
立地 桜川右岸の台地上。標高 23 ~ 25 m。
原因 アパート建築
調査日 令和3年4月28日
調査面積 7 m²
調査概要

遺跡外含めトレンチは7本設定した。遺構確認面は地表面から深さ 30 ~ 90cm である。全体に現代の攪乱を受けており、遺構や遺物は確認されなかった。
措置 遺跡範囲から除外。



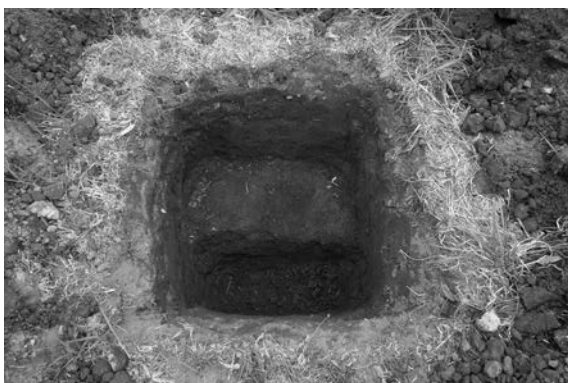
遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



全景



1 トレンチ



2 トレンチ

5. 大畑本田遺跡 (465 - 128)

所在地 土浦市大畑 829 番 2

現況 畑地

立地 桜川左岸の台地上。標高 27 ~ 28 m。

原因 個人住宅建築

調査日 令和 3 年 5 月 7 日

調査面積 20.44m²

調査概要

トレンチは 3 本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約 100cm である。3 本のトレンチから、縄文時代の竪穴建物跡 4 軒、時期不明の溝 1 条、時期不明の土坑 2 基が検出された。遺物は、縄文時代中期の土器が出土した。1 は 1 トレンチ出土の底部片である。2 は 3 トレンチ出土の体部片で沈線が施されている。

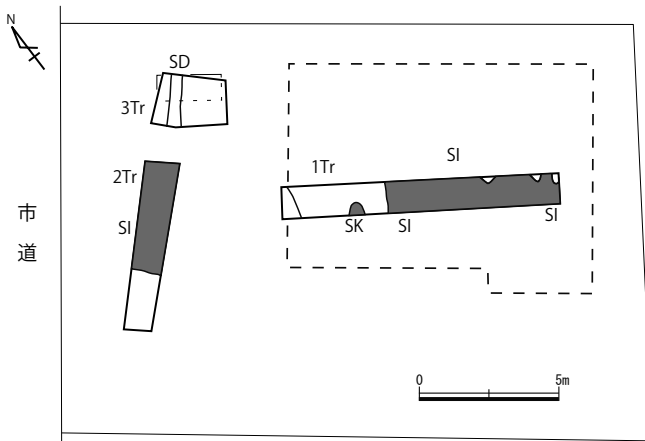
措置 遺構の保存に影響のある個所を発掘調査。
(第 2 章第 2 節 42)



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



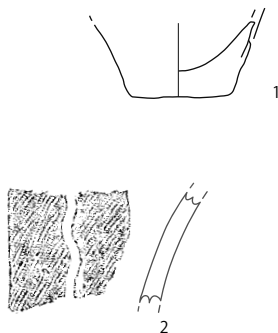
遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



1 トレンチ



2 トレンチ



0 10cm
S=1/4

出土遺物実測図

6. 神立遺跡 (203 - 185)

所在地 土浦市神立町 1210 - 1

現況 山林

立地 霞ヶ浦北岸の台地上。標高 26 m。

原因 太陽光発電設備の設置

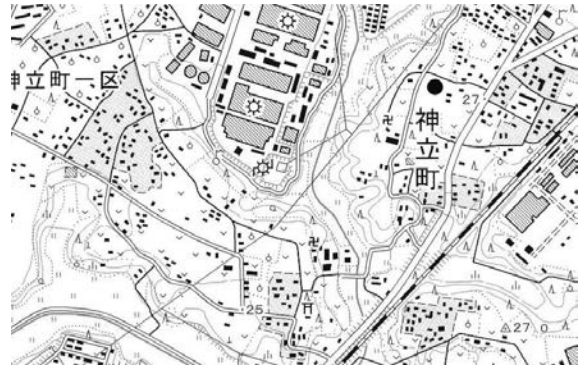
調査日 令和3年5月12・14日

調査面積 309.5㎡

調査概要

トレンチは遺跡外も含め 16 本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約 30 ～ 85cmである。4 本のトレンチから、縄文時代中期の竪穴建物跡 4 軒、土坑 2 基が検出された。遺物は、縄文時代中期の土器、中世の内耳鍋が出土した。

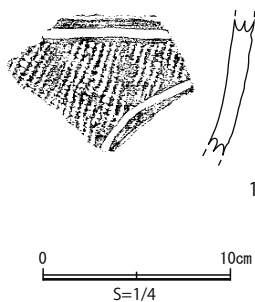
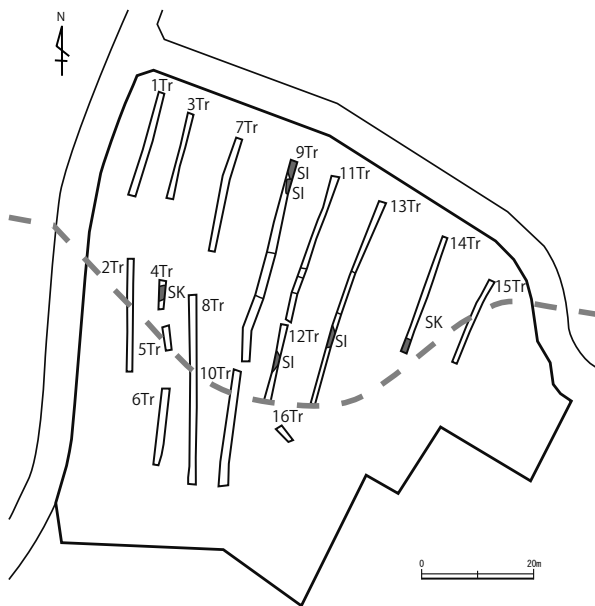
措置 遺跡範囲を拡張した。遺構に影響のない工法のため保存。



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



出土遺物実測図



1 トレンチ

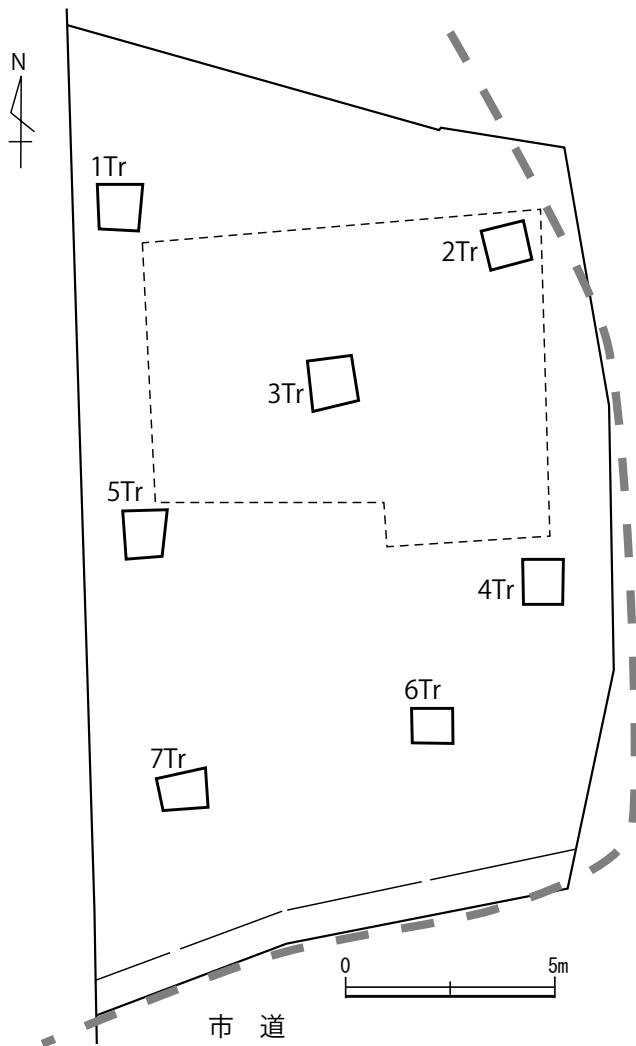


2 トレンチ

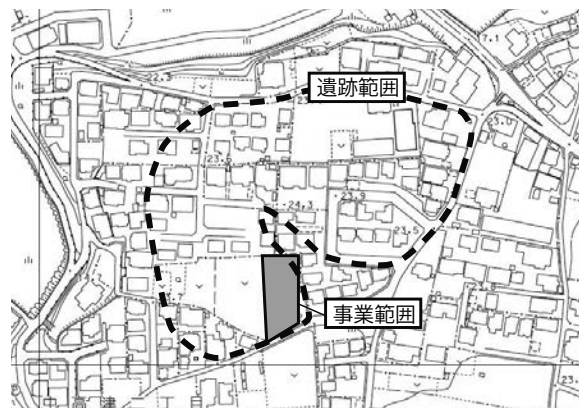
7. 中高津西原遺跡 (203 - 098)

所在地 土浦市中高津二丁目 1306 番 1
現況 荒蕪地
立地 桜川右岸の台地上。標高 22 ~ 23 m。
原因 個人住宅建築
調査日 令和 3 年 5 月 25 日
調査面積 7.21㎡
調査概要

トレンチは 7 本設定した。遺構確認面はローム層
上面で、地表面から 30 ~ 90cm である。遺構や
遺物は確認されなかった。
措置 遺跡範囲から除外。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



全景



6 トレンチ

8. 永井寄居窯跡 (465 - 107) 隣接地

所在地 土浦市永井 868 - 1 外

現況 山林

立地 天の川左岸谷に面した斜面低地。

標高 40 m

原因 埋立工事

調査日 令和3年5月28日

調査面積 11.4m²

調査概要

トレンチは3本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約70～240cmである。遺構は確認されなかった。遺物は、平安時代の須恵器、土師器、中世の土師質土器が出土した。

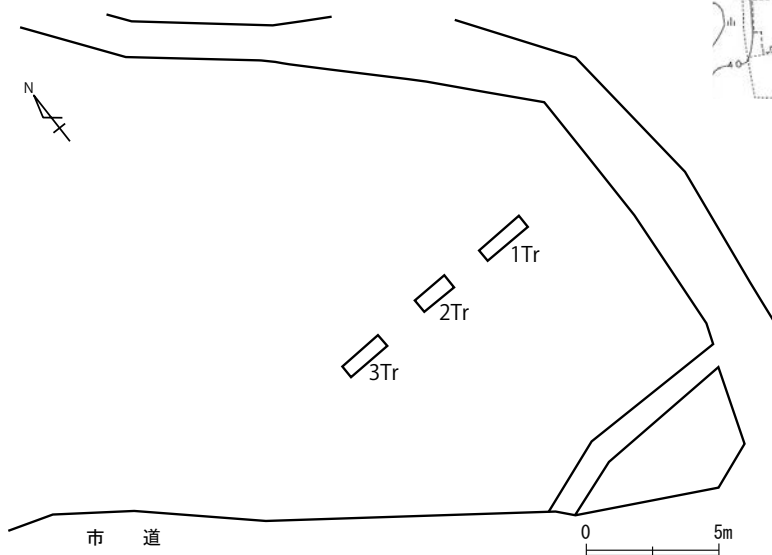
措置 遺構未検出のため、慎重工事を依頼した。



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



全景



1 トレンチ

9. 天神平遺跡・坪内遺跡 (203 - 189・190)

所在地 土浦市神立町 1853・1862-1 外
 現況 栗林
 立地 台地上、霞ヶ浦に通じる谷に面する。
 標高 25～26 m。

原因 宅地造成

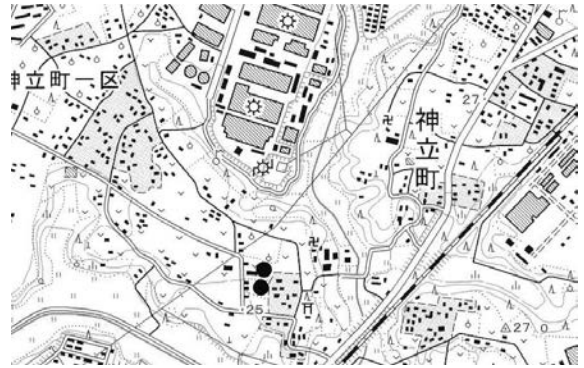
調査日 令和3年6月1～2日

調査面積 339.2㎡

調査概要

トレンチは19本設定した。市道を挟んだ調査区南半が坪内遺跡、調査区北半が天神平遺跡の範囲に該当する。遺構確認面は関東ローム層上面で、地表面からの深さは約60～155cmである。12本のトレンチから、竪穴建物跡15軒（縄文時代前期1・中期10・時期不明4）、土坑8基（縄文）を発見した。遺物は、中期の縄文土器、近世陶器片が出土した。

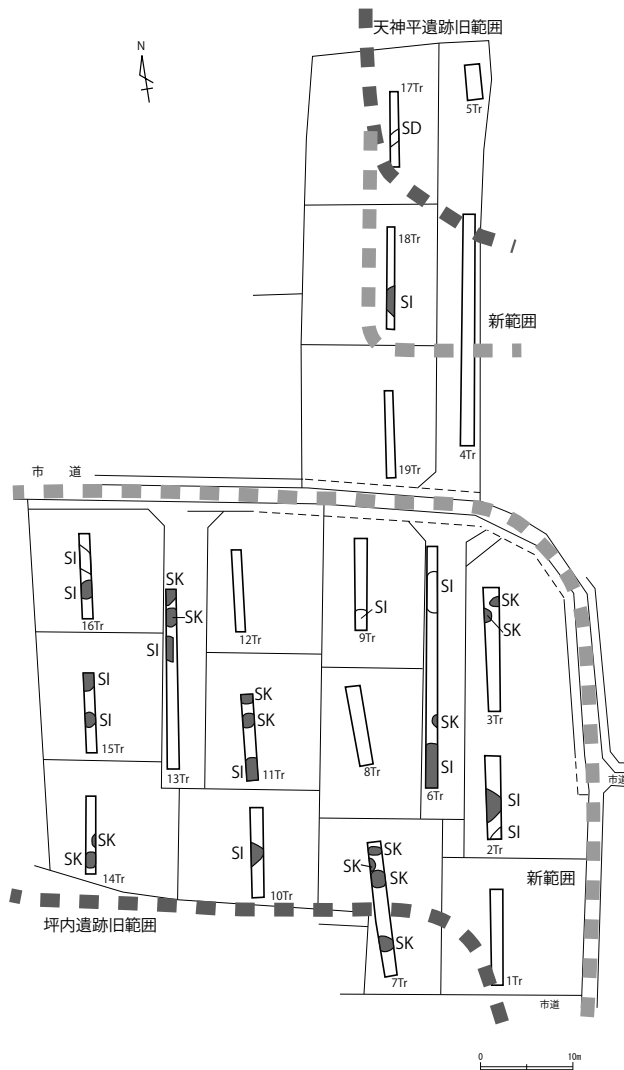
措置 遺跡範囲を拡張。



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



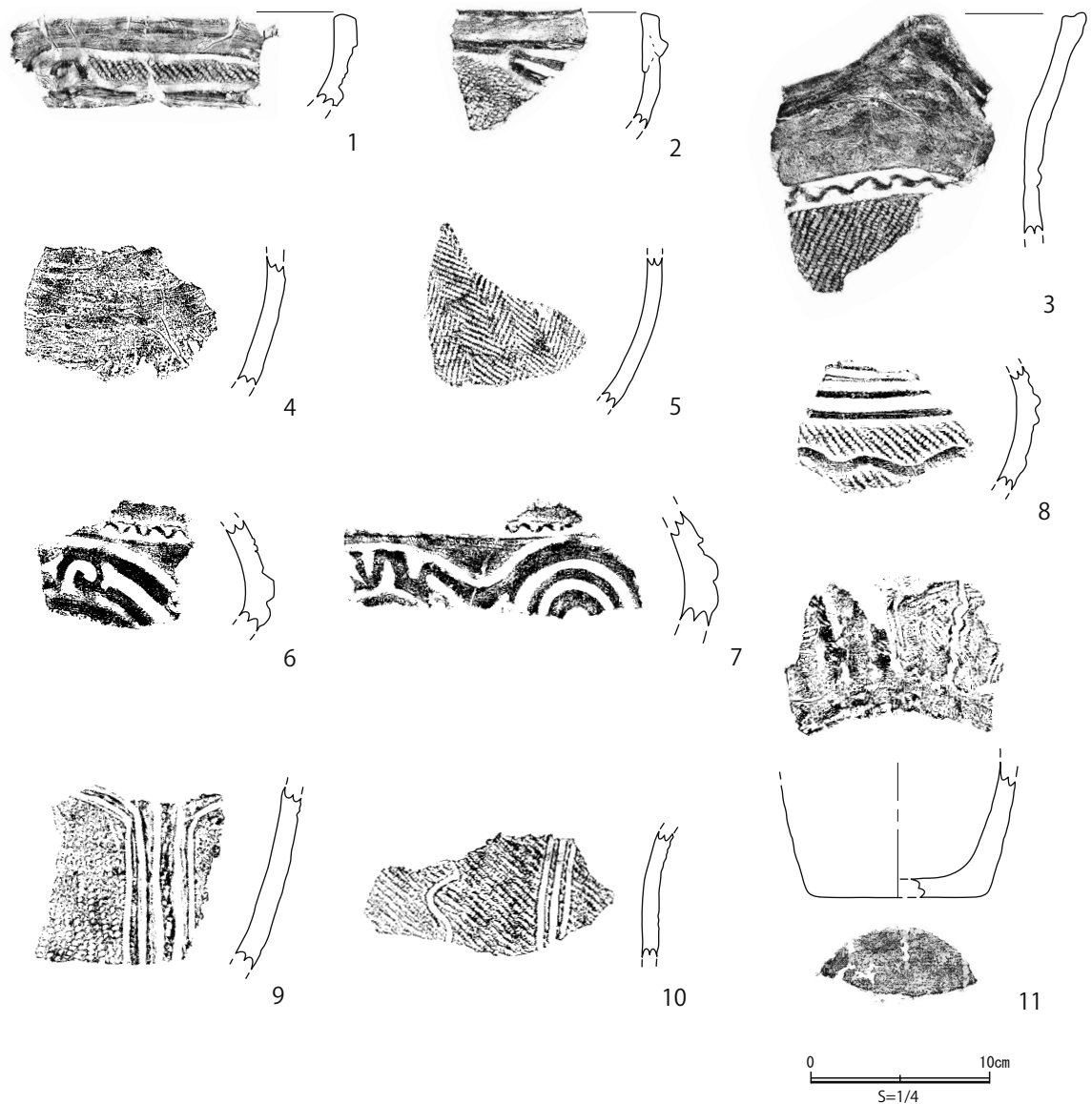
遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



6トレンチ



18トレンチ



出土遺物実測図

縄文時代中期の深鉢で、加曾利 EI 式期と思われる。3・6・7は、交互刺突文が施文され、古い様相がうかがえる。

10. 前神田遺跡 (203 - 194)

所在地 土浦市神立町 2590 - 1・2585

現況 栗林

立地 台地上。霞ヶ浦に向かって開析する谷に南面。標高 26 m。

原因 宅地造成

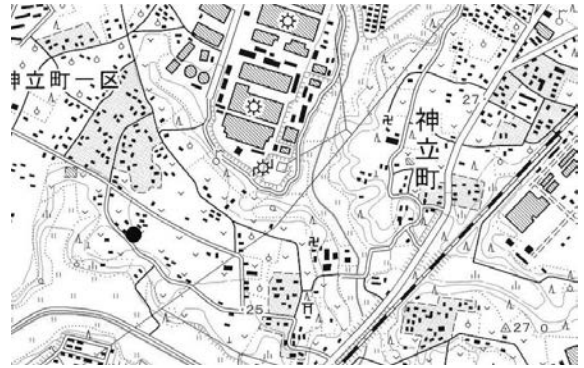
調査日 令和3年6月17・18・21日

調査面積 442.8㎡

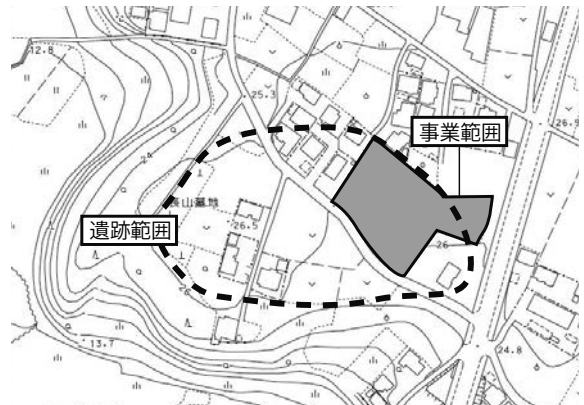
調査概要

トレンチは10本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約45～75cmである。9本のトレンチから、平安時代など竪穴建物13軒、土坑9基が検出された。遺物は、縄文土器片、土製紡錘車、土師器片、須恵器片、灰釉陶器片、近世染付碗片が出土した。

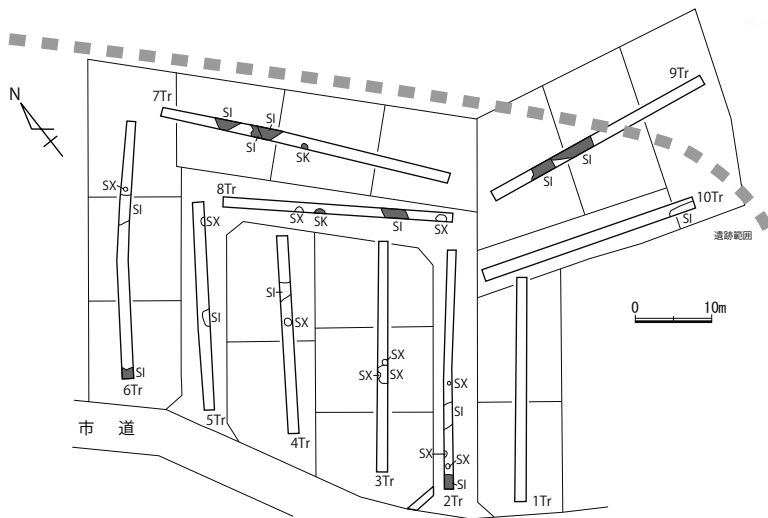
措置 引き込み道路部分について令和4年度に発掘調査を実施した。



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



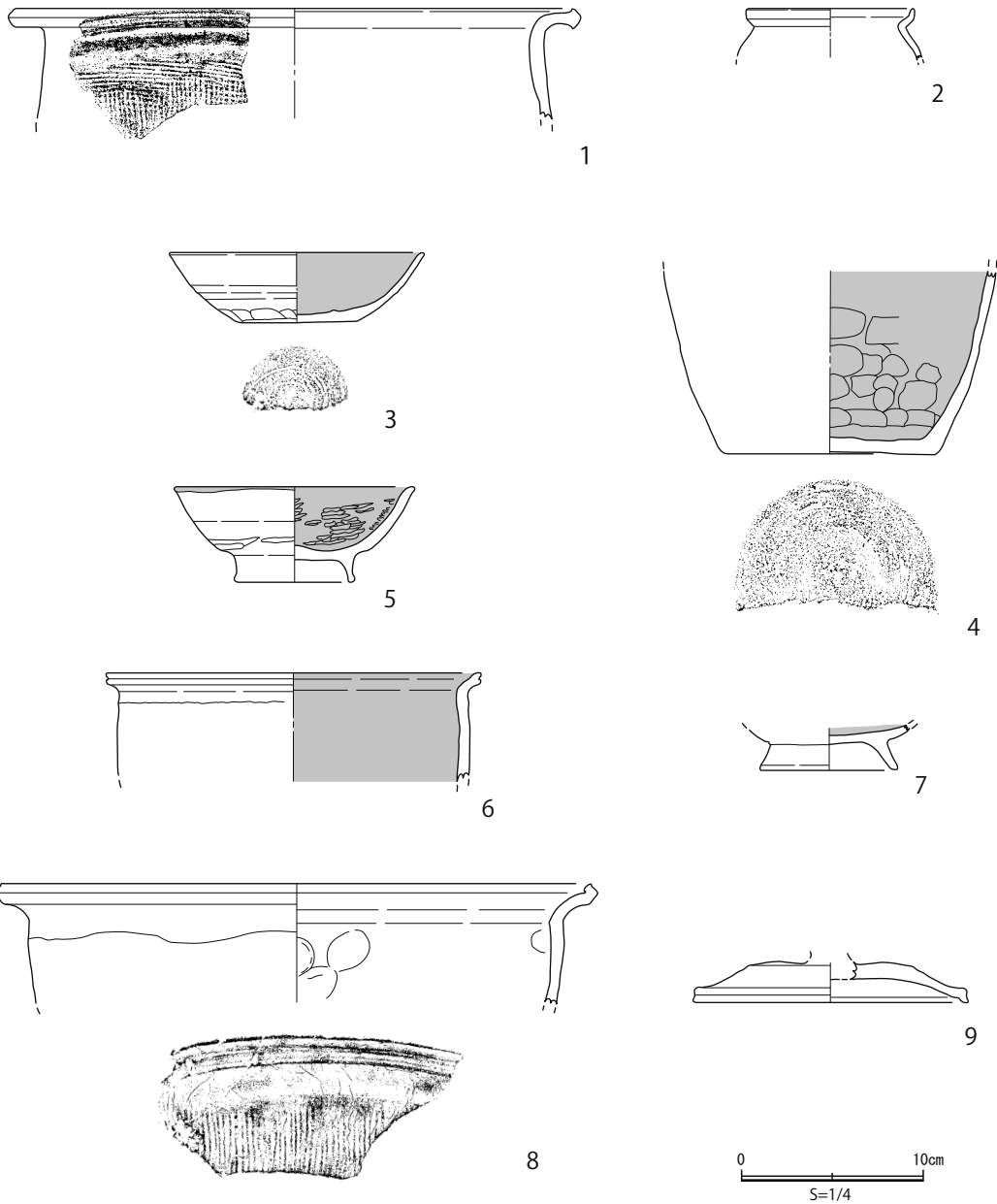
遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



7トレンチ



9トレンチ



出土遺物実測図：

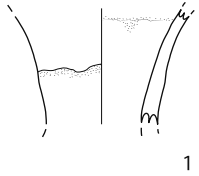
1は2トレンチ出土の須恵器。鉢の口縁部で、外面に格子状のタタキ目が観察される。2から6は7トレンチ出土の土師器である。2は小型の甕の口縁部で、口辺が内外面ヨコナデ。3は杯で、底部ヘラ切の後体部下端をヘラケズリ。内面は黒色処理。4は鉢で、内面に黒色処理。5は高台付付杯で、内面に黒色処理、ミガキ。6は甕の口縁部で、内面を黒色処理。7・8は8トレンチ出土。7は土師器高台付杯の底部である。内面は黒色処理され、細かいミガキが観察される。8は須恵器鉢の口縁部で、体部外面に縦位の平行タタキ目。9は9トレンチ出土の須恵器蓋である。胎土に粗粒の長石を含む。

11. 下高津小学校遺跡 (203 - 100)

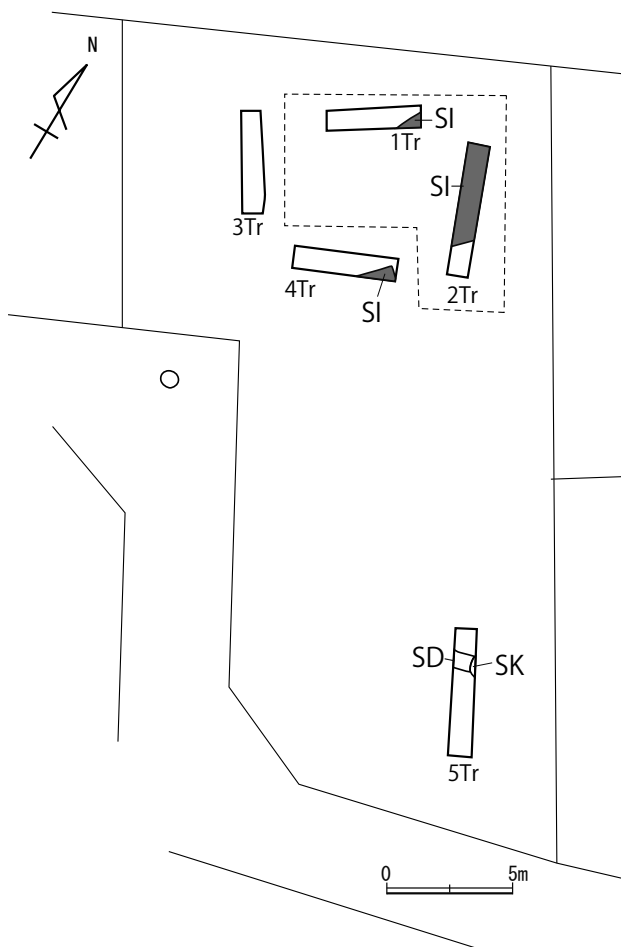
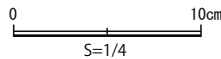
所在地 土浦市下高津四丁目 640 - 1 外
 現況 荒蕪地
 立地 桜川右岸の台地縁辺部。標高 25 m。
 原因 個人住宅建築
 調査日 令和3年7月15日
 調査面積 22.2㎡
 調査概要

トレンチは5本設定した。遺構確認面はローム層
 上面で、地表面からの深さは約 50cmである。3本の
 トレンチから、古墳時代後期の竪穴建物跡1軒、平
 安時代2軒が検出された。遺物は、古墳時代後期の
 土師器、平安時代の須恵器や、土師器、灰釉陶器が
 出土した。1は灰釉陶器の長頸瓶頸部。

措置 保護層を設け保存。



出土遺物実測図



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



2 トレンチ



4 トレンチ

12. 御冥遺跡 (203 - 199) 隣接地

所在地 土浦市木田余 2474 番 1

現況 荒蕪地

立地 霞ヶ浦北岸の台地上。標高 26 m。

原因 個人住宅建築

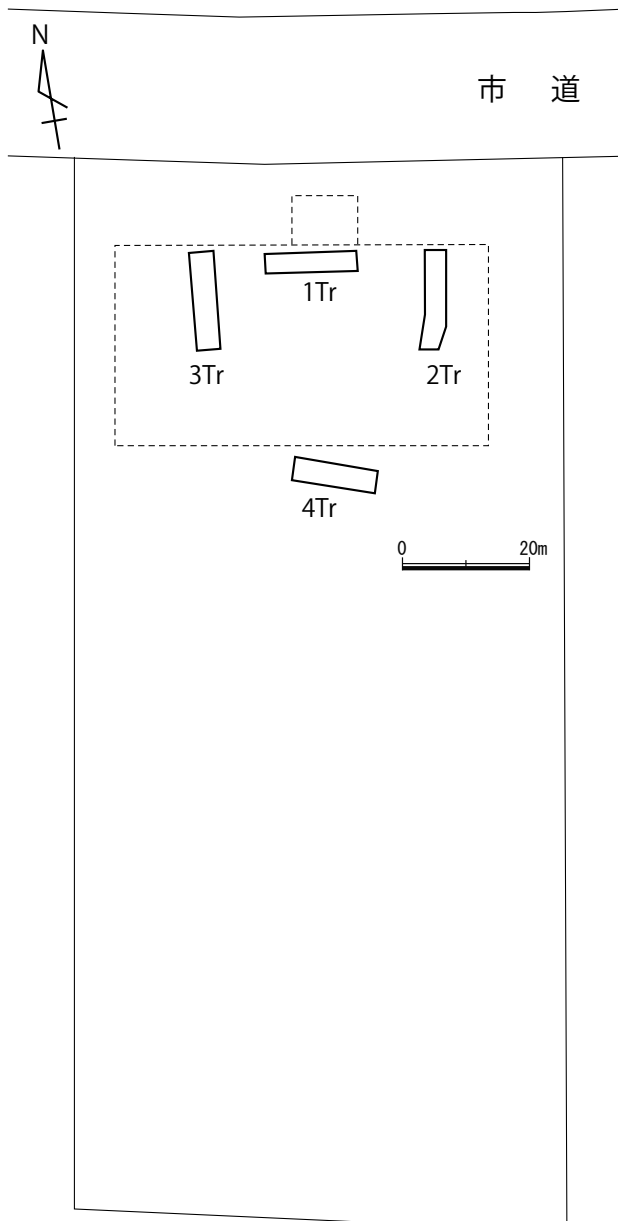
調査日 令和 3 年 7 月 15 日

調査面積 15.0㎡

調査概要

トレンチは 4 本設定した。遺構確認面はローム層
上面で、地表面からの深さは約 50 ～ 120cm である。
全体に攪乱を受けており、遺構や遺物は確認されな
かった。

措置 遺構未検出のため、慎重工事を依頼した。



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



1 トレンチ



4 トレンチ

13. 下高津小学校遺跡 (203 - 100)

所在地 土浦市下高津四丁目2 - 9

現況 小学校敷地内

立地 桜川右岸の台地縁辺部。標高 23 m。

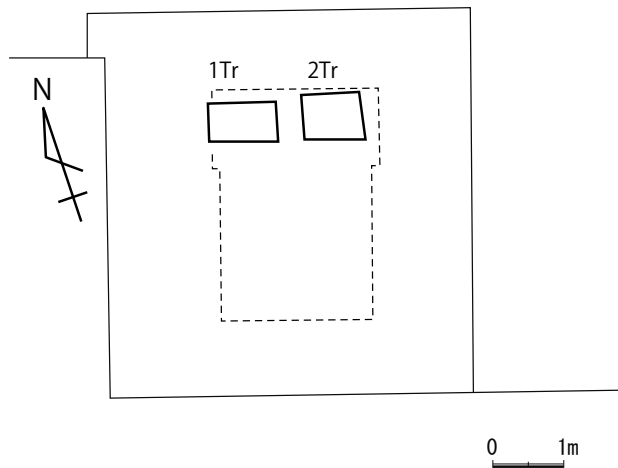
原因 学校設備設置工事

調査日 令和3年7月28日

調査面積 1 m²

調査概要

トレンチは2本設定した。遺構確認面はローム上面で、地表面から深さ約50cmである。全体に攪乱を受けており、遺構や遺物は確認されなかった。
措置 遺構未検出のため、慎重工事を依頼。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



1 トレンチ



2 トレンチ

14. 松原遺跡 (203 - 028)

所在地 土浦市右叡 1374 番 3

現況 更地

立地 花室川右岸の台地上。標高 23 m。

原因 個人住宅建築

調査日 令和 3 年 8 月 6 日

調査面積 8 m²

調査概要

トレンチは 8 本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約 50cm である。北東のトレンチから、奈良・平安時代の竪穴建物跡 1 軒が検出された。遺物は、奈良・平安時代の土師器、須恵器が出土した。

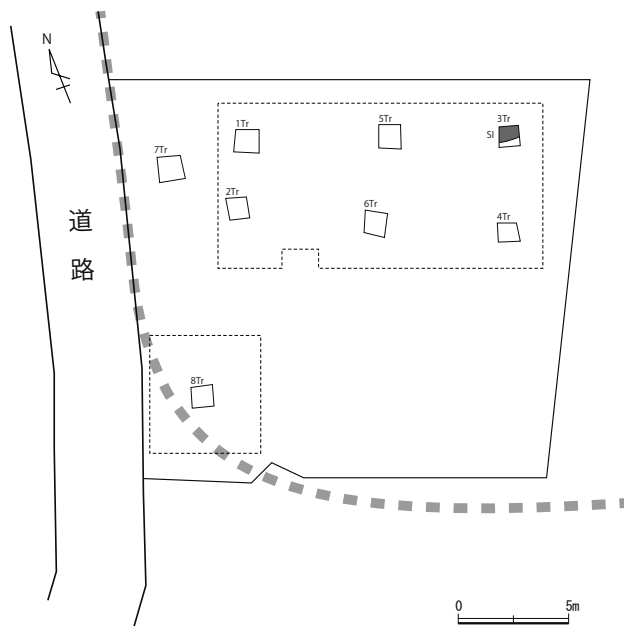
措置 保護層を設け保存。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



3 トレンチ



8 トレンチ

15. 前神田遺跡 (203 - 194)

所在地 土浦市神立町 2588 - 3 外

現況 更地

立地 霞ヶ浦北岸の台地上。標高 25 m。

原因 宅地造成

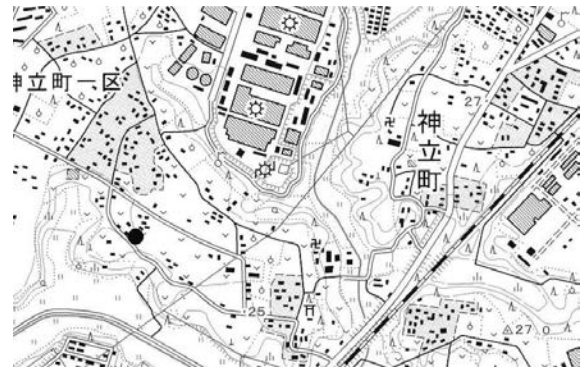
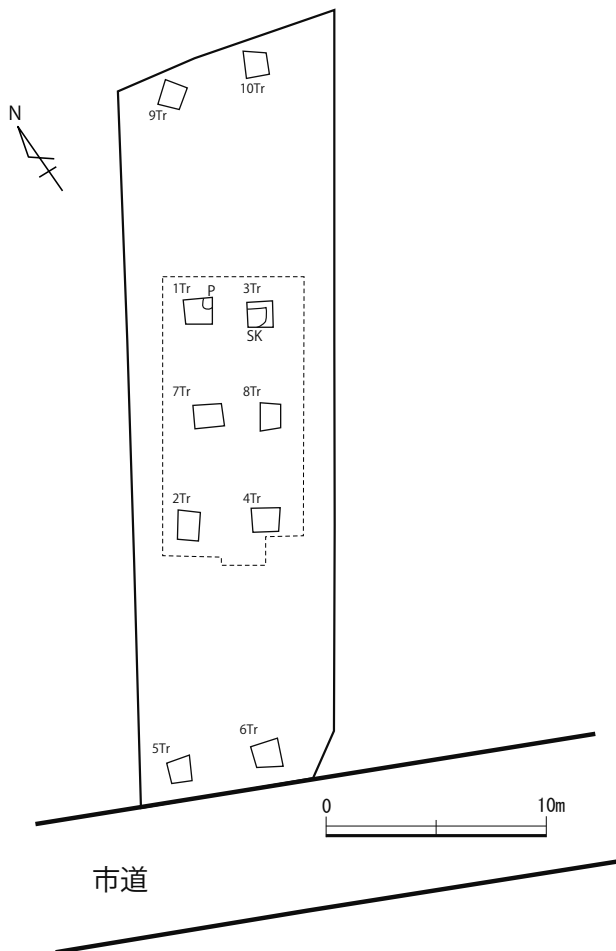
調査日 令和3年8月12日

調査面積 10m²

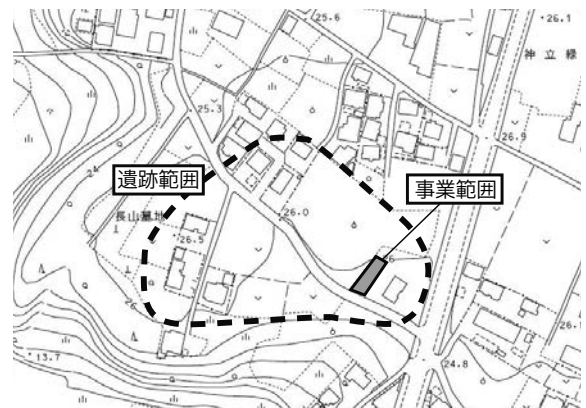
調査概要

トレンチは10本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約50cmである。2本のトレンチから、時期不明の土坑1基、柱穴1基が検出された。遺物は、奈良・平安時代の土師器、須恵器が出土した。

措置 遺構未検出のため、慎重工事を依頼。



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



1 トレンチ



4 トレンチ

16. 西原遺跡 (203 - 231)

所在地 土浦市粟野町 1866 番 2

現況 畑地

立地 天の川右岸の台地上。標高 26 m。

原因 個人住宅建築

調査日 令和 3 年 8 月 19 日

調査面積 9m²

調査概要

トレンチは 9 本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約 110cm である。6 トレンチから、竪穴建物跡 1 軒が検出された。遺物は出土しなかったが、周辺遺跡の状況から弥生時代後期と思われる。

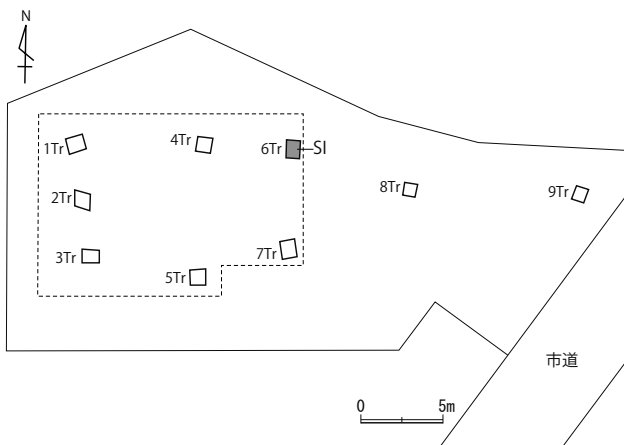
措置 保護層を設け保存。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



5 トレンチ



6 トレンチ

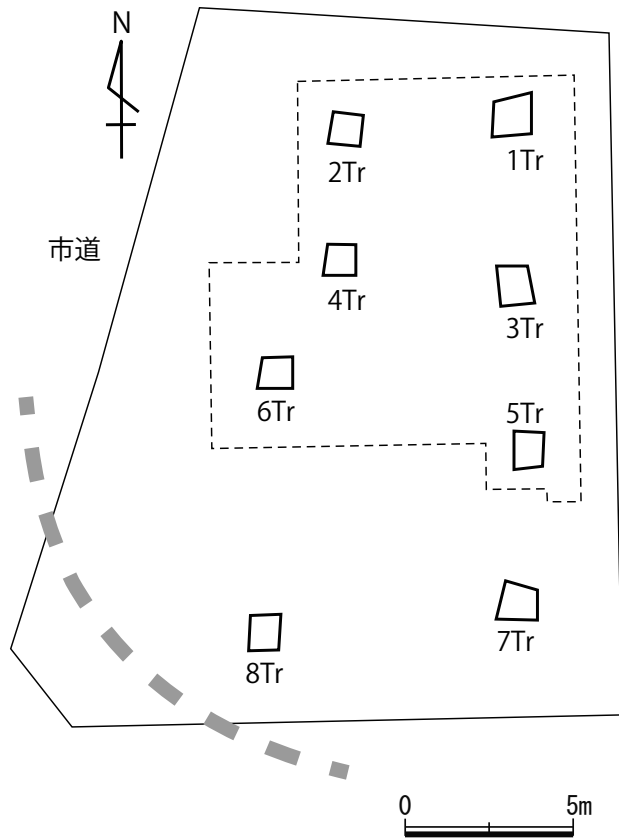


8 トレンチ

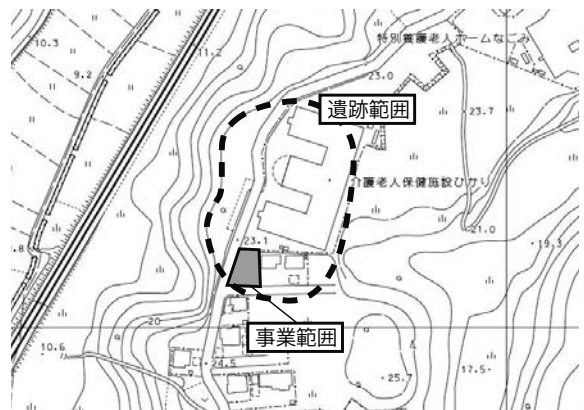
17. 形部遺跡 (203 - 469)

所在地 土浦市右叡 1112 番 1 外
現況 更地
立地 花室川右岸の台地上。標高 25 m。
原因 個人住宅建築
調査日 令和 3 年 8 月 25 日
調査面積 8 m²
調査概要

トレンチは 8 本設定した。遺構確認面はローム層
上面で、地表面からの深さは約 20 ~ 80cm である。
遺構は確認されなかった。遺物は、縄文土器、古墳
時代後期の土師器が出土した。
措置 遺跡範囲から除外。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



1 トレンチ



5 トレンチ

18. 蟹久保遺跡 (203 - 192)

所在地 土浦市神立町 2097 - 2

現況 荒蕪地

立地 霞ヶ浦北岸の台地上。標高 25 ~ 26 m。

原因 個人住宅建築

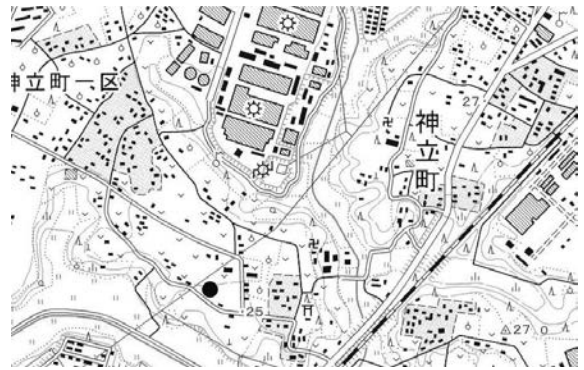
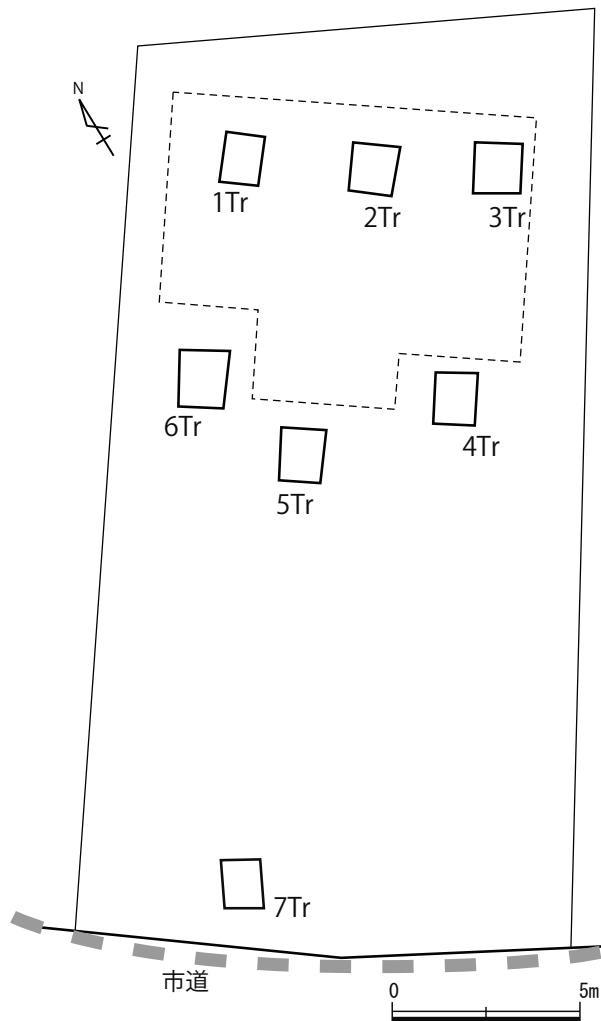
調査日 令和3年9月10日

調査面積 10.36㎡

調査概要

トレンチは7本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約100～110cmである。遺構は確認されなかった。遺物は、中世とみられる土器が出土した。

措置 遺跡範囲から除外。



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



2トレンチ



7トレンチ

19. 神立八幡遺跡 (203 - 188)

所在地 土浦市神立町 2192 - 1

現況 更地

立地 霞ヶ浦北岸の台地縁辺部。標高 26 m。

原因 個人住宅建築

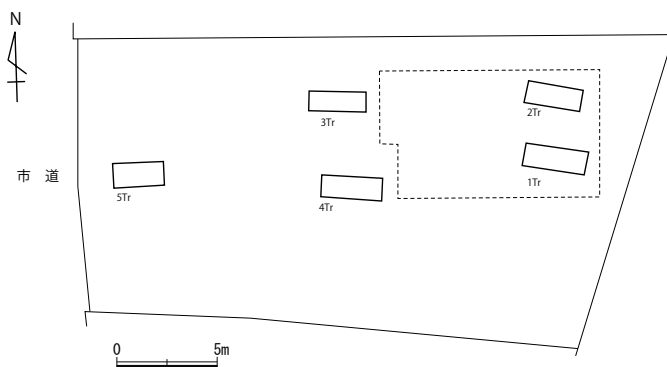
調査日 令和3年9月14日

調査面積 15.2㎡

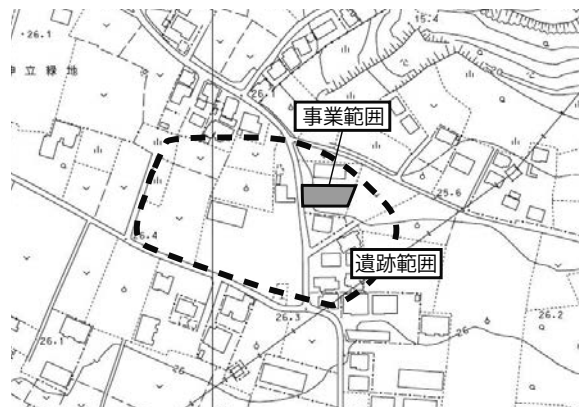
調査概要

トレンチは5本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約130～210cmである。全体に攪乱を受けており、遺構や遺物は確認されなかった。

措置 遺構未検出のため、慎重工事を依頼。



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



1 トレンチ



全景



3 トレンチ

20. 西谷津西遺跡 (203 - 244)

所在地 土浦市西並木町 3731 番 1 外

現況 更地

立地 桜川左岸の台地上。標高 27 m。

原因 個人住宅建築

調査日 令和 3 年 9 月 24 日

調査面積 24.76m²

調査概要

トレンチは 7 本設定した。遺構確認面はローム層
上面で、地表面からの深さは約 40 ~ 60cm である。

1 本のトレンチから、平安時代の土坑 1 基が検出さ
れた。遺物は、平安時代の土師器・須恵器が出土した。

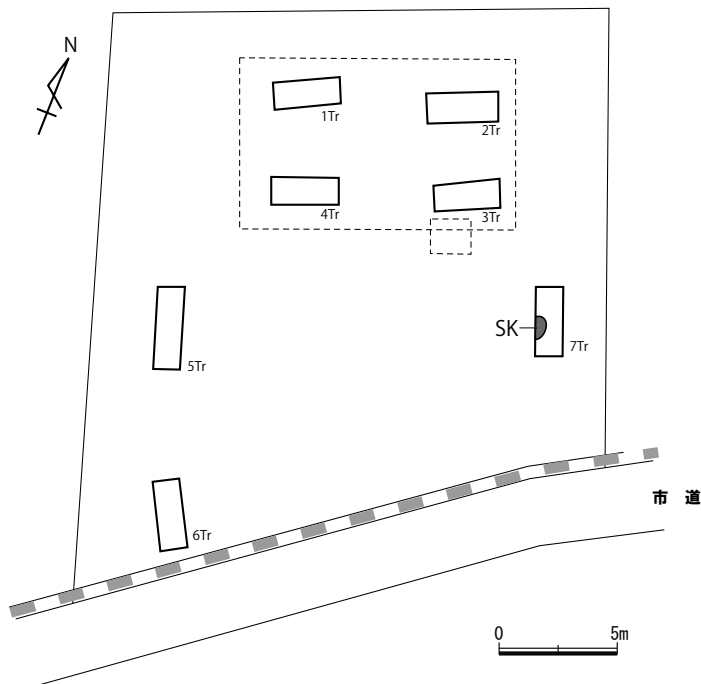
措置 保護層を設け保存。



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



全景



7 トレンチ

21. 下高津小学校遺跡 (203 - 100)

所在地 土浦市下高津四丁目 734 番 10

現況 更地

立地 桜川右岸の台地上。標高 22 ~ 23 m。

原因 個人住宅建築

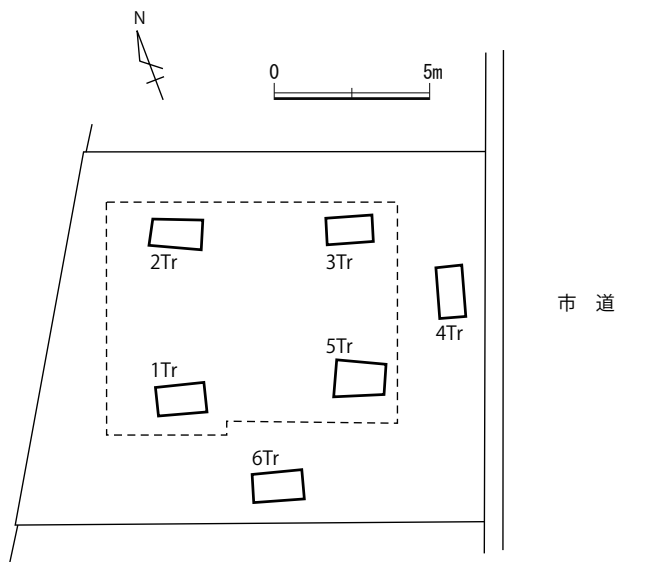
調査日 令和 3 年 9 月 28 日

調査面積 9 m²

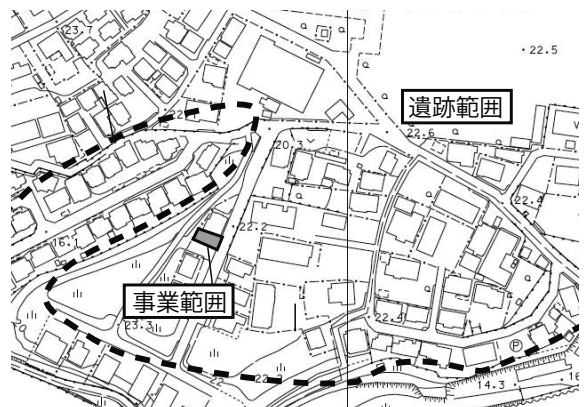
調査概要

トレンチは 6 本設定した。遺構確認面はローム層
上面で、地表面からの深さは約 30 ~ 60cm である。
遺構や遺物は確認されなかった。

措置 遺構未検出のため、慎重工事を依頼。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



4 トレンチ



6 トレンチ

22. 形部遺跡 (203 - 469)

所在地 土浦市右舩 1111 番 25

現況 更地

立地 花室川右岸の台地上。標高 25 m。

原因 個人住宅建築

調査日 令和 3 年 9 月 30 日

調査面積 28.85m²

調査概要

トレンチは 8 本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約 30cm である。3 本のトレンチから、古墳時代の竪穴建物跡 1 軒が検出された。遺物は、古墳時代後期の土師器が出土した。1 は 1 トレンチ検出カマド脇から出土した土師器杯。口縁部はヨコナデ。口縁部から体部にかけて外面内面共に煤の付着が見られる。

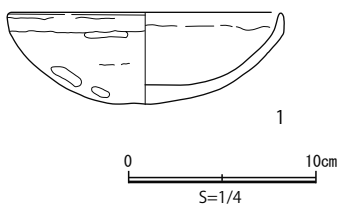
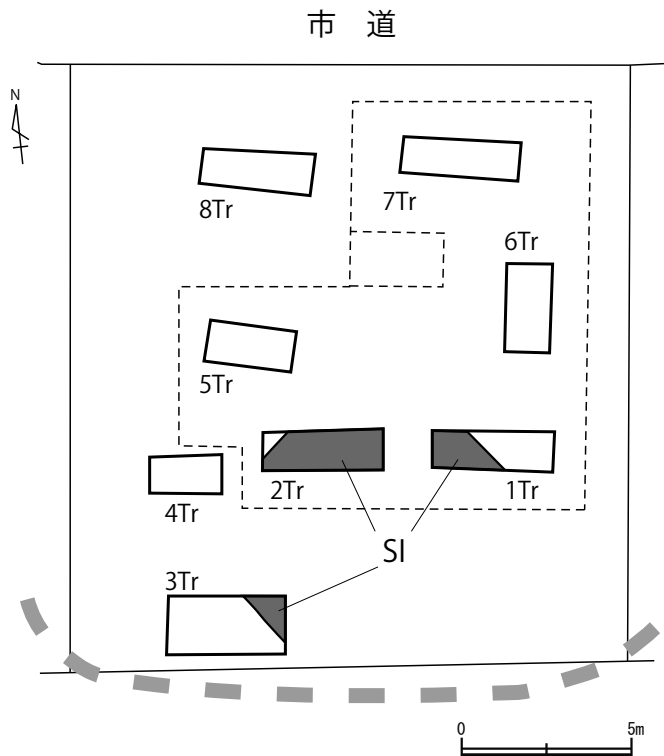
措置 令和 3 年度に発掘調査を実施。(第 2 章 第 2 節 43)



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



出土遺物実測図



全景



1 トレンチ

23. 大畑本田遺跡 (465 - 128)

所在地 土浦市大畑 1178 番の一部

現況 畑地

立地 桜川左岸の台地上。標高 27 ~ 28 m。

原因 個人住宅建築

調査日 令和 3 年 10 月 28 日

調査面積 15.75m²

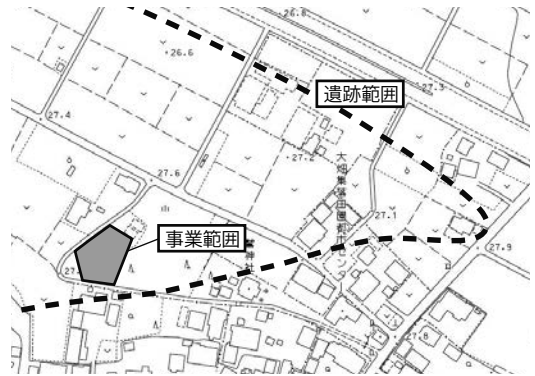
調査概要

トレンチは 9 本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約 80 ~ 135cm である。保存対象となる遺構は検出されなかった。遺物は、縄文時代中期から晩期の土器が出土した。1 は 1 トレンチ出土の縄文時代中期の土器。深鉢の底部で、外面は単節の縄文が施される。内面上端および底部は煤が付着。

措置 遺構未検出のため、慎重工事を依頼。



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



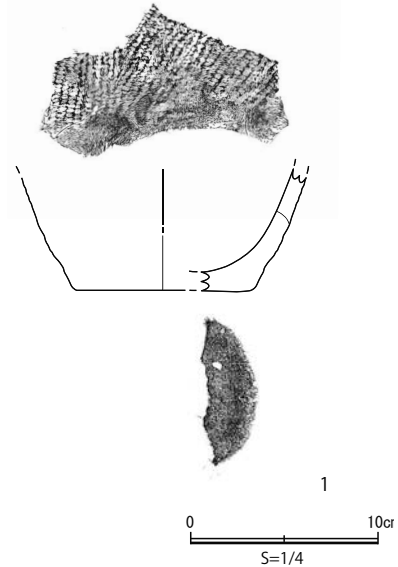
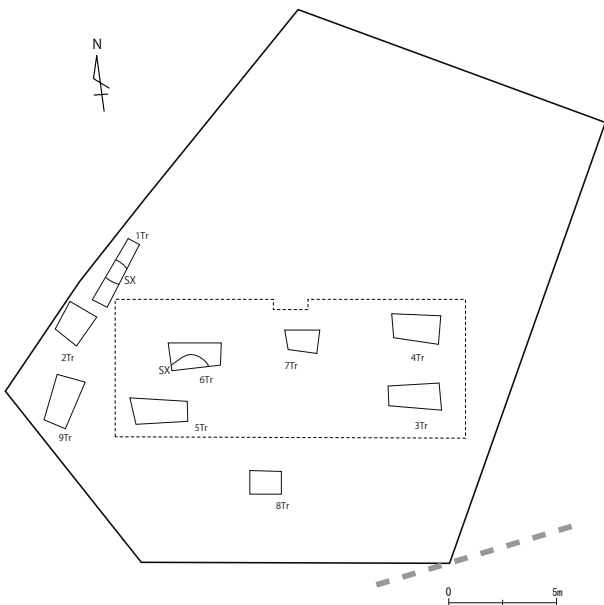
遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



全景



3 トレンチ



出土遺物実測図

24. 西谷津西遺跡 (203 - 244)

所在地 土浦市西並木町 3731 番 2 外

現況 更地

立地 桜川左岸の台地上。標高 27 m。

原因 個人住宅建築

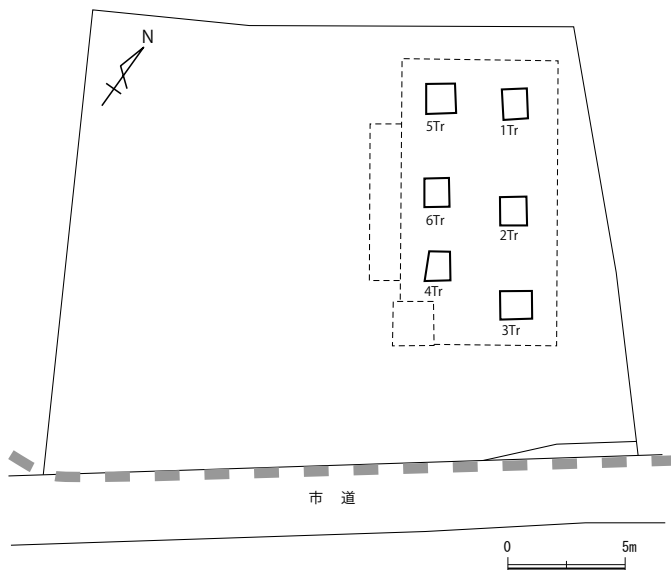
調査日 令和 3 年 11 月 5 日

調査面積 8.61m²

調査概要

トレンチは 6 本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約 45～110cm である。遺構は検出されなかった。遺物は、平安時代の土師器・須恵器片が出土した。

措置 遺跡範囲から除外。



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



全景



4 トレンチ

25. 松山遺跡 (203 - 187)

所在地 土浦市神立町 2234 - 1 外

現況 荒蕪地

立地 霞ヶ浦北岸の台地上。標高 25 ~ 26 m。

原因 宅地分譲

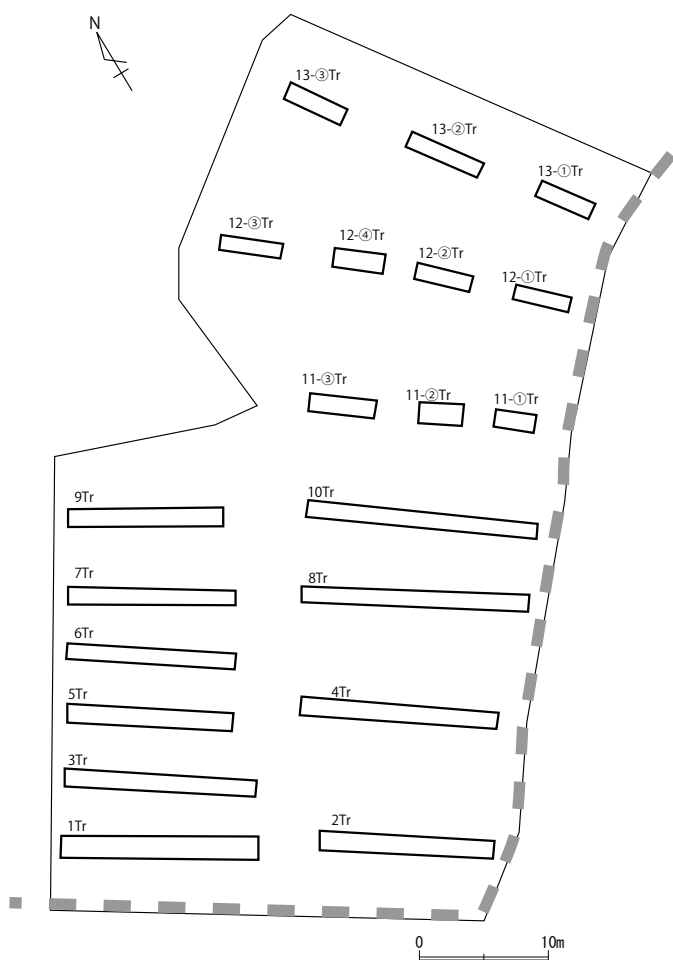
調査日 令和3年11月10日・12日

調査面積 257.5m²

調査概要

トレンチは20本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約45~110cmである。遺構は検出されなかった。遺物は、平安時代の土師器・須恵器片が出土した。

措置 遺跡範囲から除外。



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



1 トレンチ



11-①トレンチ

26. 土浦城跡 (203 - 266)

所在地 土浦市中央一丁目 11 - 27 外

現況 更地

立地 桜川河口の微高地上。標高約 2.5 m。

原因 個人住宅建築

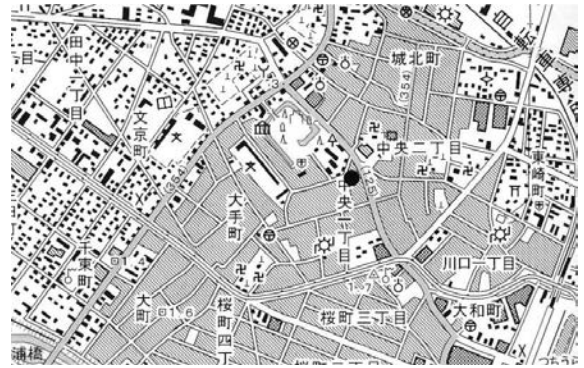
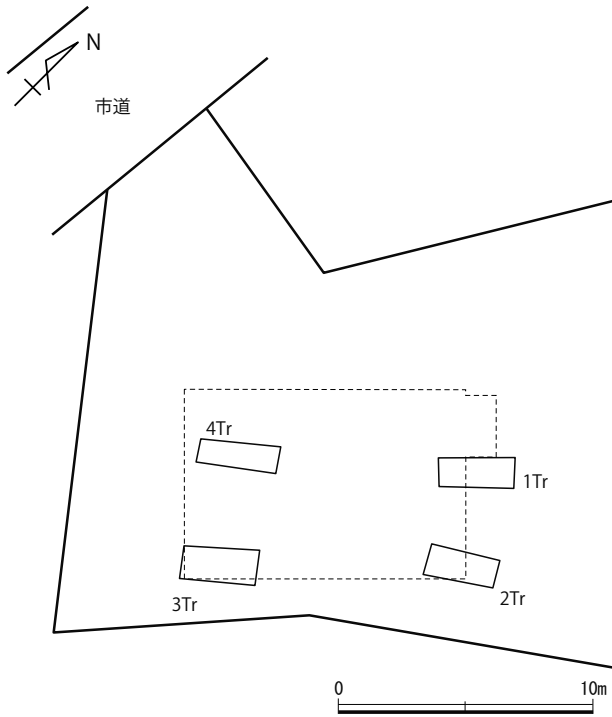
調査日 令和3年11月19日

調査面積 11.3㎡

調査概要

トレンチは4本設定した。遺構確認面は地表面から深さ約50～160cmである。保存対象となるような遺構は検出されなかった。遺物は、近世の陶磁器、近代の瓦・レンガが出土した。

措置 遺構未検出のため、慎重工事を依頼。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



1 トレンチ



4 トレンチ



2 トレンチ

27. 神立遺跡 (203 - 185)

所在地 土浦市神立町 1263 番 1 外

現況 荒蕪地

立地 霞ヶ浦北岸の台地縁辺部。標高 26 m。

原因 個人住宅建築

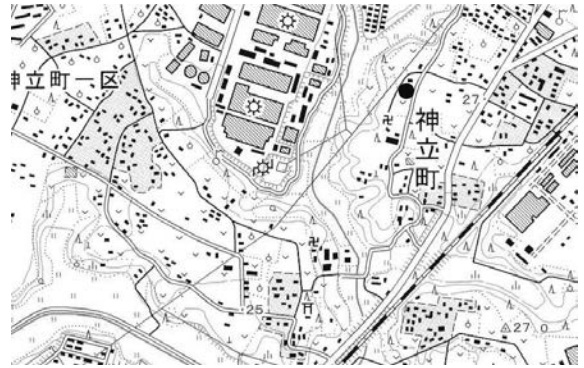
調査日 令和 3 年 11 月 24 日

調査面積 9.14m²

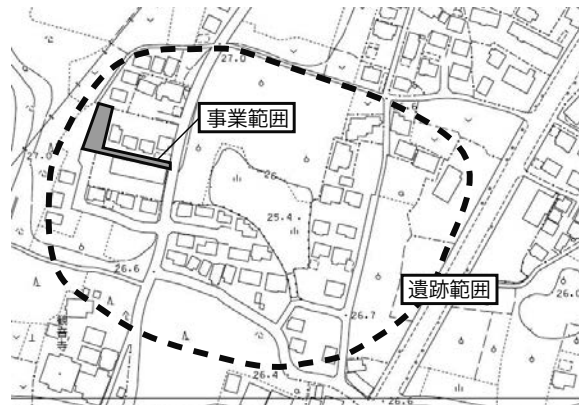
調査概要

トレンチは 8 本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約 65 ～ 90cm である。1 本のトレンチから、縄文時代中期の土坑 1 基が検出された。遺物は、縄文時代中期の土器と雲母片岩が出土した。

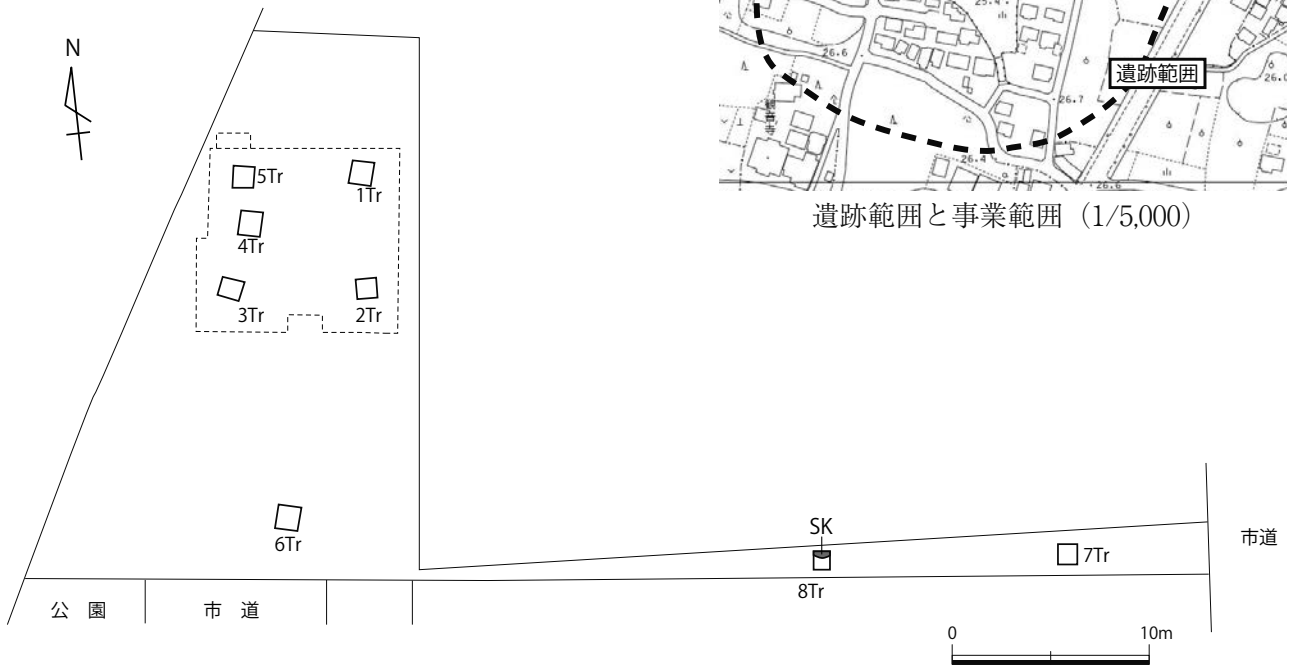
措置 保護層を設け保存。



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



5 トレンチ



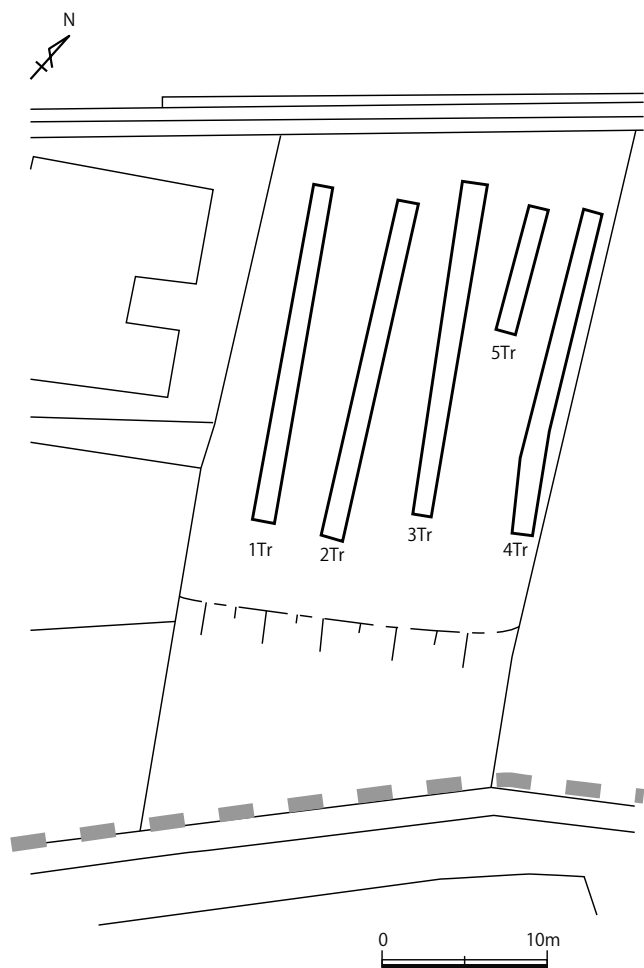
7 トレンチ

28. ビヤ首遺跡 (203 - 096)

所在地 土浦市中高津一丁目 662 - 2
現況 荒蕪地
立地 花室川左岸の台地上。標高 25 m。
原因 宅地分譲
調査日 令和3年11月26日
調査面積 105.16㎡
調査概要

トレンチは5本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約40～80cmである。保存対象となるような遺構は検出されなかった。遺物は、縄文時代の土器が出土した。

措置 遺構未検出のため、慎重工事を依頼。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



1 トレンチ



2 トレンチ

29. 出シ山遺跡 (203 - 124)

所在地 土浦市上高津 1690

現況 更地

立地 桜川右岸の台地上。標高 25 m。

原因 工場建設

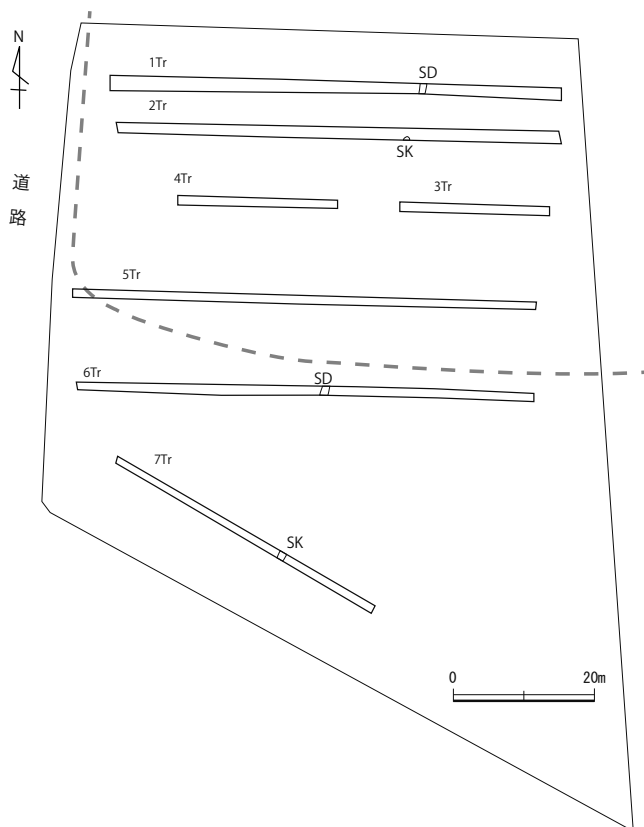
調査日 令和3年11月31日・12月2日・3日

調査面積 463m²

調査概要

遺跡外を含めトレンチは7本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約40～130cmである。4本のトレンチから、時期不明の溝3条と土坑1基が検出されたが、保存対象となるような遺構は検出されなかった。遺物は、縄文時代前期、古墳時代の土器が出土した。

措置 遺跡範囲から除外。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



全景



6トレンチ

30. 矢作遺跡 (203 - 169)

所在地 土浦市矢作 84 番外

現況 敷地内

立地 桜川右岸の微高地上。標高 4 ~ 5 m。

原因 個人住宅建築

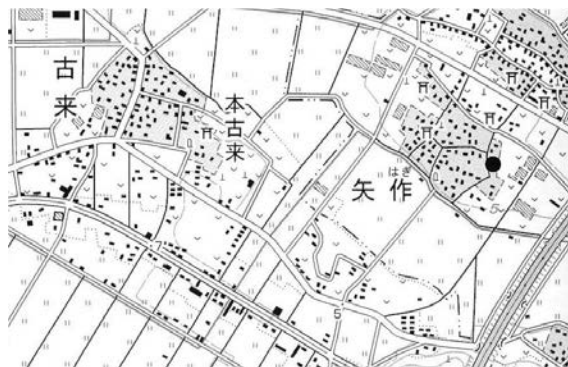
調査日 令和 3 年 12 月 14 日

調査面積 3.95m²

調査概要

トレンチは 4 本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約 70cm である。遺構は検出されなかった。遺物は、近世から近現代の陶磁器が出土した。

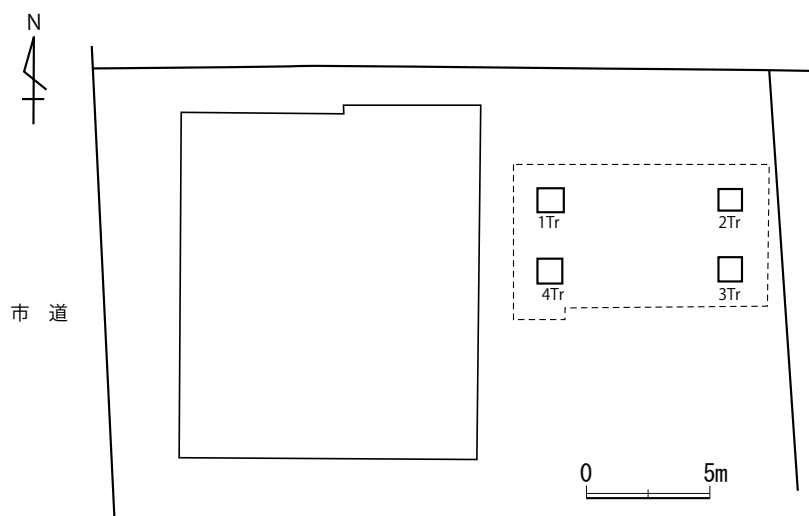
措置 遺構未検出のため、慎重工事を依頼。



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



1・4 トレンチ



3 トレンチ

31. 下高津小学校遺跡 (203 - 100)

所在地 土浦市下高津四丁目 653 番 1 外

現況 畑地

立地 桜川右岸の台地上。標高 22 ~ 23 m。

原因 宅地分譲

調査日 令和 3 年 12 月 15 日

調査面積 109.59㎡

調査概要

トレンチは 7 本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約 20 ~ 60cm である。4 本のトレンチから、縄文時代の竪穴建物跡 3 軒、古墳時代の竪穴建物跡 3 軒、時期不明の竪穴建物跡 1 軒が検出された。縄文前期の竪穴建物内にはハマグリ・ハイガイを主体とし、他にマガキ・オキシジミ・ミオフキ・ヤマトシジミなどを含む貝層が発見された。遺物は、縄文時代前期、古墳時代の土器が出土した。

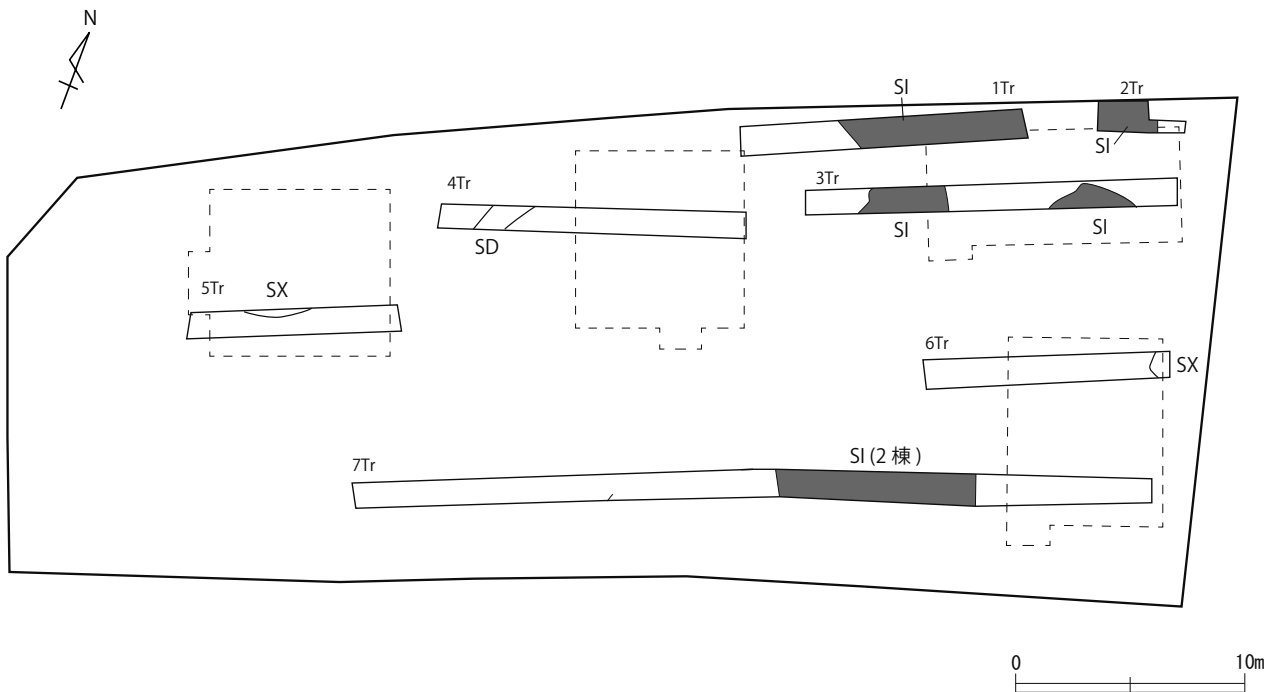
措置 保護層を設け保存。

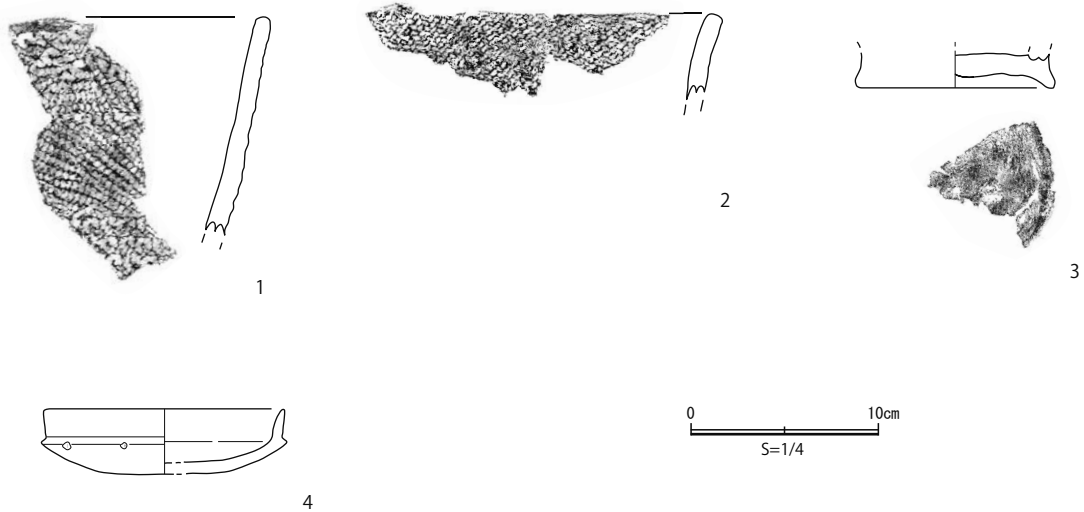


遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)





出土遺物実測図：

1. 2は1トレンチから出土した縄文土器の深鉢口縁部。3は3トレンチ出土の縄文土器深鉢底部。

1～3は胎土に繊維が混入し、縄文前期と思われる。4は7トレンチ出土の土師器杯で、古墳時代後期と思われる。



1トレンチ



7トレンチ



1トレンチ 貝出土状況



1トレンチ 出土貝

32. 天神平遺跡・坪内遺跡 (203 - 189、203 - 190)

所在地 土浦市神立町 1852 外

現況 栗林・荒蕪地

立地 霞ヶ浦に通じる谷に面する台地上。

標高 25 ~ 26 m

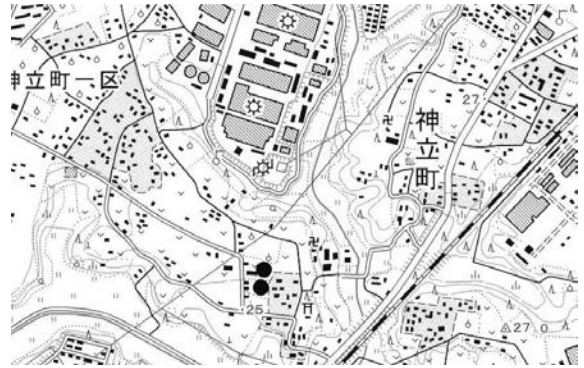
原因 宅地分譲

調査日 令和3年12月21日

調査面積 144.9㎡

調査概要

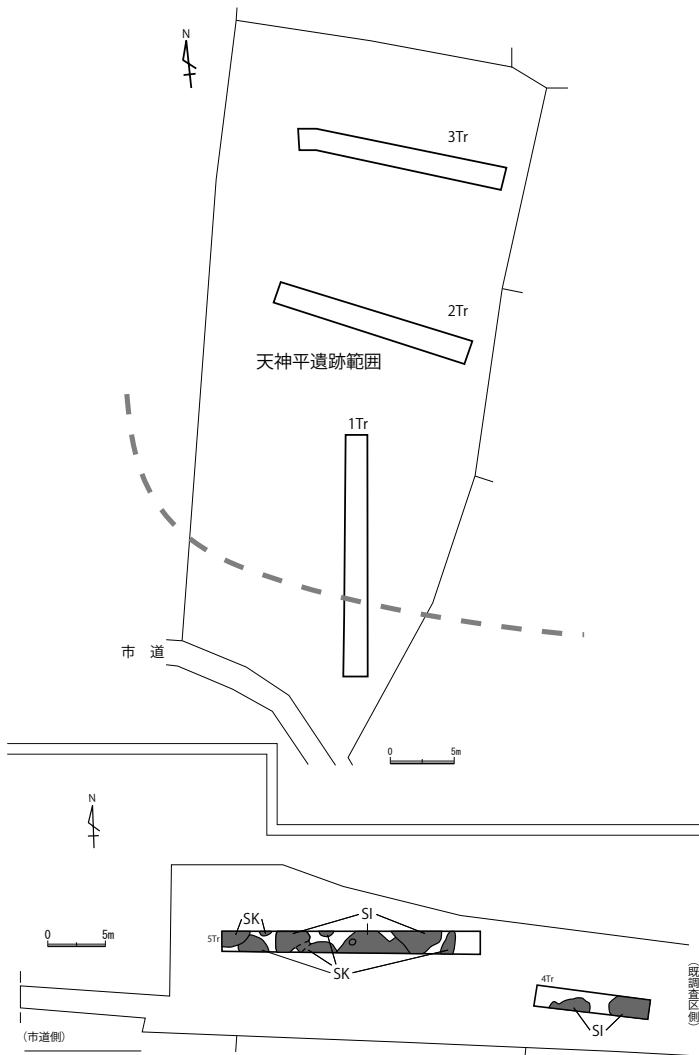
トレンチを5本設定した。市道を挟んだ調査区北半が天神平遺跡、調査区南半が坪内遺跡である。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約50~105cmである。坪内遺跡側の2本のトレンチで縄文時代中期の竪穴建物4軒、土坑5基、中世の地下式坑と地点貝塚1基を検出した。遺物は、縄文時代中期の土器、中世の土器・陶器が出土した。(41頁)



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



4 トレンチ



5 トレンチ

33. 谷原門B遺跡 (203 - 004) 隣接地

所在地 土浦市中 1111 番 1

現況 荒蕪地

立地 花室川右岸の台地上から緩斜面上。
標高 24 ~ 25 m。

原因 倉庫建築

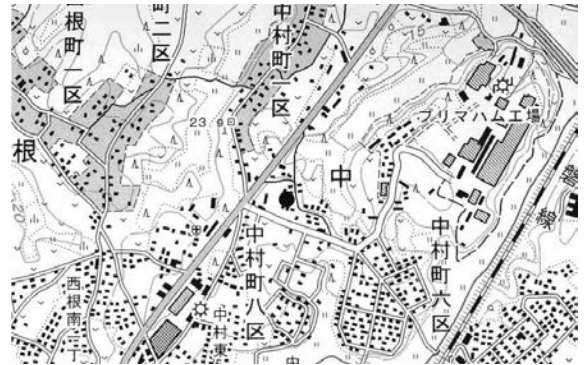
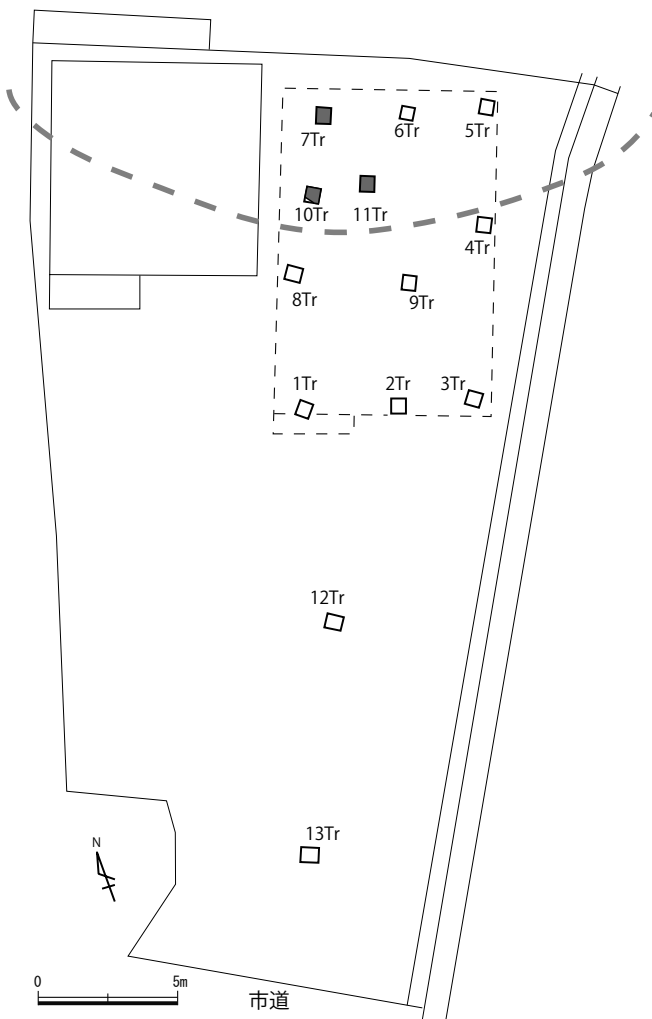
調査日 令和 4 年 1 月 6 日

調査面積 13m²

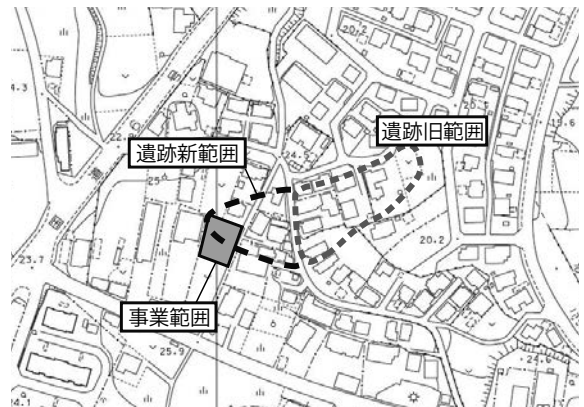
調査概要

トレンチは遺跡外を含め 13 本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約 30 ~ 60cm である。3 本のトレンチから、平安時代の竪穴建物跡 1 軒が検出された。遺物は、平安時代の須恵器・土師器が出土した。(41 頁)

措置 遺跡範囲拡張し、保護層を設け保存。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



10 トレンチ



11 トレンチ

34. 天神遺跡 (465 - 002)

所在地 土浦市中 1133 - 1

現況 荒蕪地

立地 花室川右岸の台地上。標高 25 ~ 26 m。

原因 宅地分譲

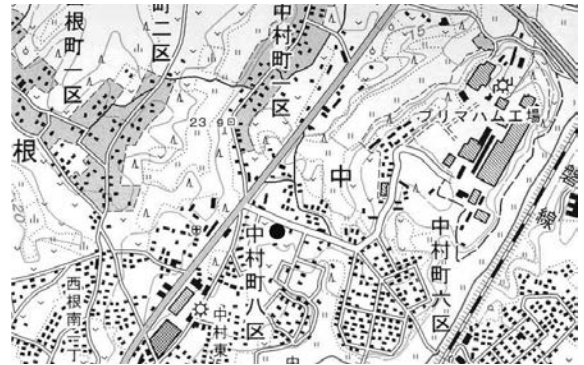
調査日 令和4年1月13日・14日

調査面積 151.5m²

調査概要

トレンチは5本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約 60 ~ 160cmである。5本のトレンチから、平安時代から中世の土坑2基、方形竪穴状遺構2基、時期不明の溝2条が検出された。遺物は、平安時代から中世の土師器、須恵器、陶器が出土した。(41頁)。

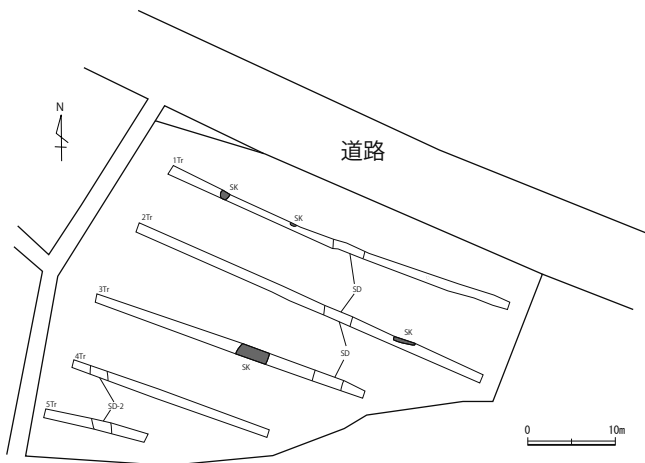
措置 保護層を設け保存。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



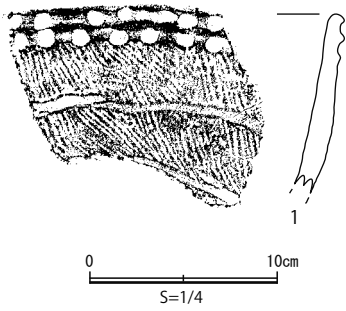
遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



1 トレンチ



3 トレンチ



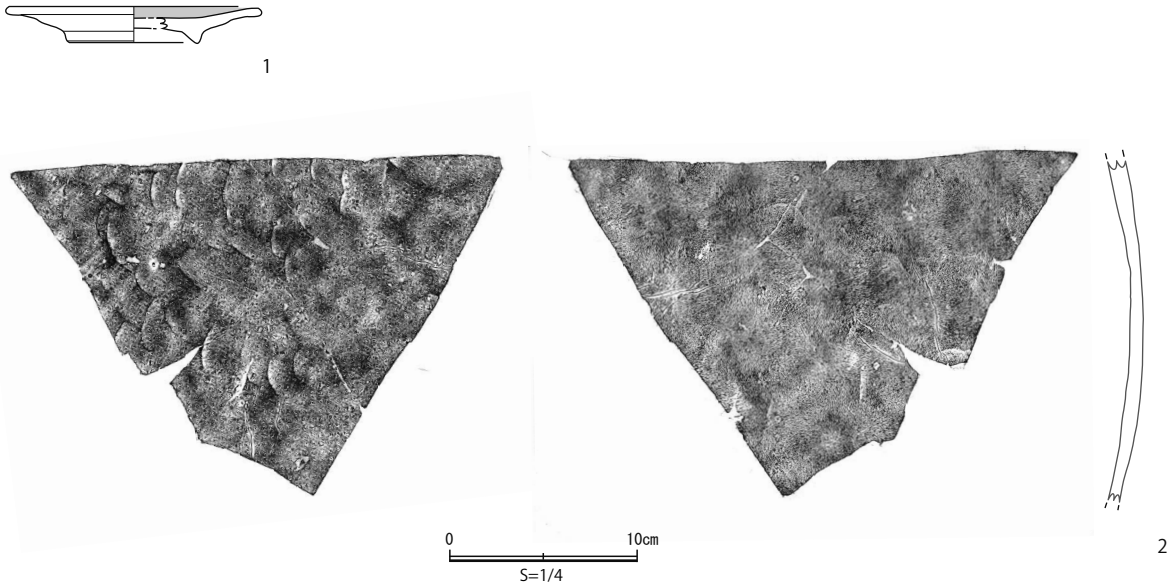
32. 坪内遺跡出土遺物実測図

1は5トレンチ出土の縄文土器。深鉢の口縁部で、外面口縁部に2条の沈線が施され、両段に刺突文を巡らせる。



33. 谷原門B遺跡出土遺物実測図

1は2トレンチ出土の須恵器。甕の体部で、外面は平行のタタキ目。2は1トレンチ出土の須恵器甑である。体部から底部が残存し、外面体部には平行タタキ目が施され、下端部にはケズリが見られる。



34. 天神遺跡出土遺物実測図

1は2トレンチ出土の土師器高台付皿。内面は黒色処理され、ミガキが施される。2は2トレンチ出土の渥美甕で、内面には当て具痕が見られる。

35. 土浦城跡 (203 - 266)

所在地 土浦市中央一丁目1番

現況 城址公園内

立地 桜川河口の微高地上。標高約 2.5 m。

原因 堀跡確認

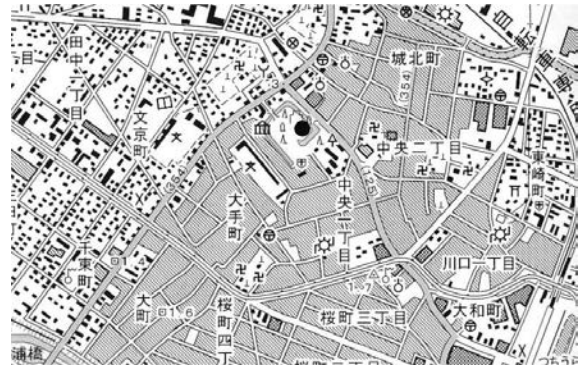
調査日 令和4年1月19日～21日

調査面積 3.8㎡

調査概要

トレンチは3本設定した。遺構確認面は地表面から深さ約20～120cmである。土堀基礎となる石敷遺構は確認されなかった。遺物は、土塁構築土(3b層)から16世紀のかわらけ、表土層を中心に近世・近代の瓦・磁器が出土した。

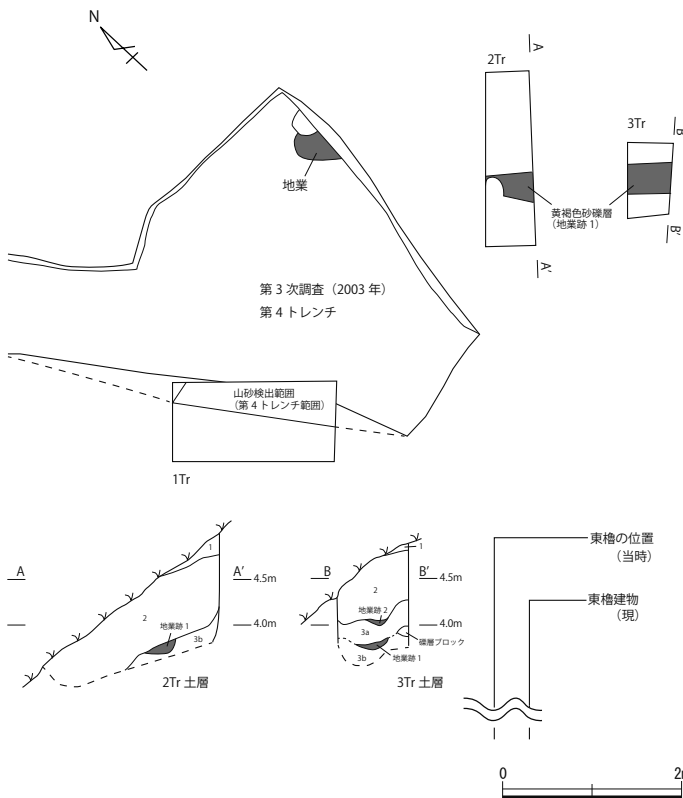
措置 現状保存



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)

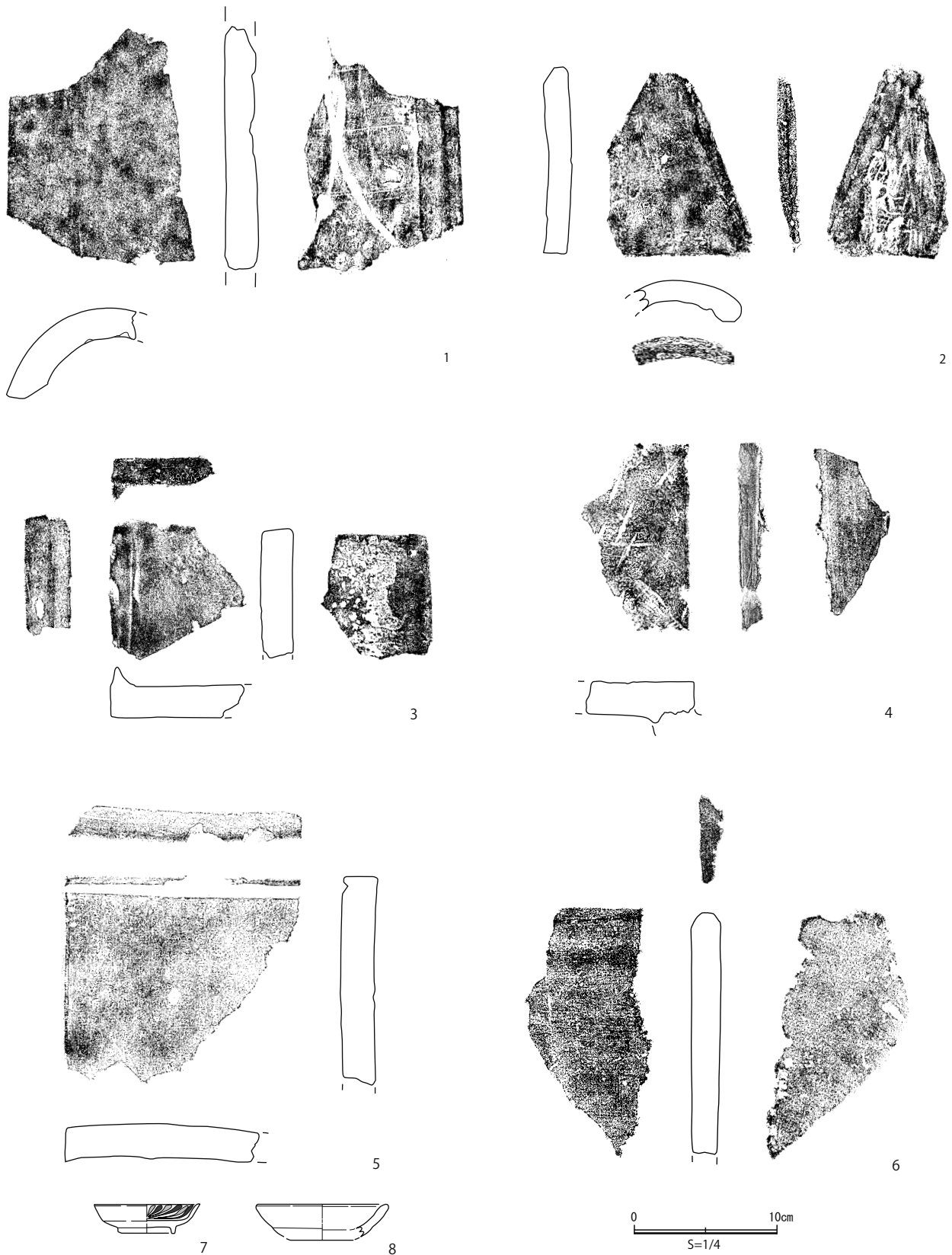


1 トレンチ



2 トレンチ

- 1 褐色 (7.5YR4/4) 砂質シルト層。東櫓復元時の盛土。
 - 2 灰褐色 (7.5YR4/2) の礫混じり粘土質細～極細粒砂層。部分的に礫が多い部分や泥がちな部分がある。礫は直径3cm程度の花崗岩の角礫やチャートの亜角礫などで、瓦、近現代の磁器が出土する。3層を切って堆積している。昭和期の公園整備に伴う盛土・造成土または大正～昭和初期の都役所時代の盛土・造成土を思われる。
 - 3 暗褐色 (7.5YR3/3) の細粒砂混じりのシルト層。白色の砂(長石など花崗岩由来のものか)を多く含む。堅く締まっており、遺物はほとんど見られない。部分的に中粒砂層のブロックや礫層ブロックを含む。
- 地業跡1 東櫓土塁の構築土と思われる。3トレンチでは4層上面を境界として便宜的に3a層、3b層に分けたが、堆積物の内容は同じである。
- 地業跡2 褐色 (7.5YR) 砂礫層。マトリクスは粗～中粒砂で、直径1～4cm程度の円礫を含む。東西方向に帯状に分布し、3トレンチでは3層中にレンズ状に認められることから土塁構築時の地業跡の可能性が有る。かわらけが1点出土した。地業跡1と同一の堆積物であり、同様の地業跡と思われる。



出土遺物実測図：

1から3は1トレンチ出土の瓦。1は丸瓦。筒部左側である。2は面戸瓦。3は板塀瓦。平瓦部の破片であり、隣接瓦の棧部が残る。4、5は2トレンチ出土の板塀瓦。4は棧部が脱落した平瓦部である。棧部の剥離痕には6条の楕状工具による楕目が残存する。5も平瓦部で、V字溝が遺存する。また釘孔が見られる。6は3トレンチ出土の平瓦。表面には製作痕と考えられる微小な沈線が横方向に残存する。7は2トレンチ出土の近代染付磁器小皿。～。8は3トレンチ3b層出土の土師質土器小皿。外面はヨコナデ、内面はナデが見られる。16世紀後半から17世紀初頭のものと思われる。

36. 霞ヶ岡遺跡 (203 - 083)

所在地 土浦市霞ヶ岡町 2199

現況 更地・畑地

立地 桜川と花室川に挟まれた台地上。
標高 24～25 m。

原因 宅地分譲

調査日 令和4年2月8日

調査面積 72.75㎡

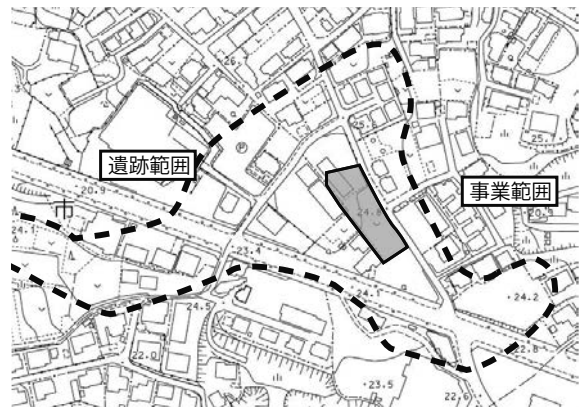
調査概要

トレンチは4本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約20～80cmである。保存対象となるような遺構は検出されなかった。遺物は、縄文時代前期の土器、古墳時代中期の土師器、中世の陶器が出土した。

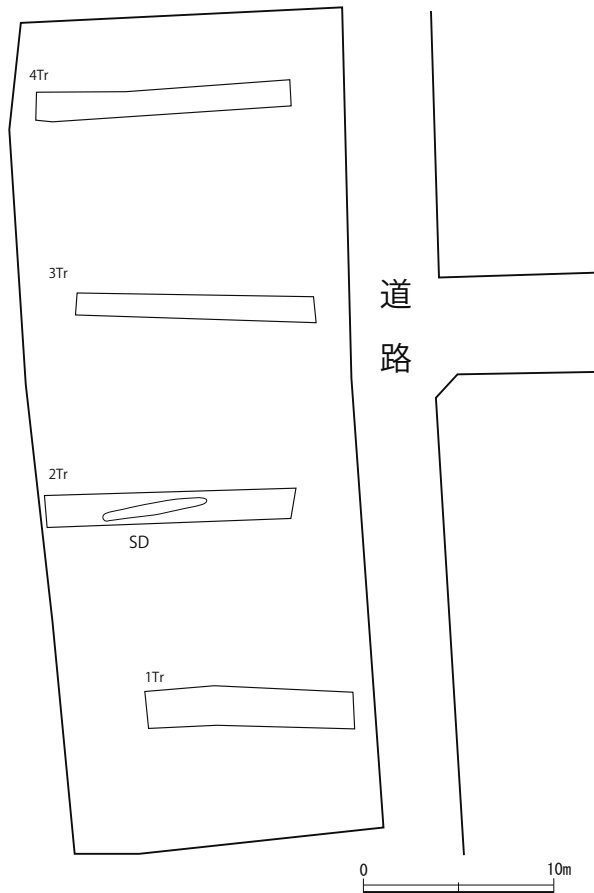
措置 遺構未検出のため、慎重工事。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



1トレンチ



2トレンチ

37.小高石橋遺跡 (465 - 033)

所在地 土浦市小高480番1外

現況 山林

立地 桜川左岸の台地上。標高26～27m。

原因 太陽光発電設備の設置

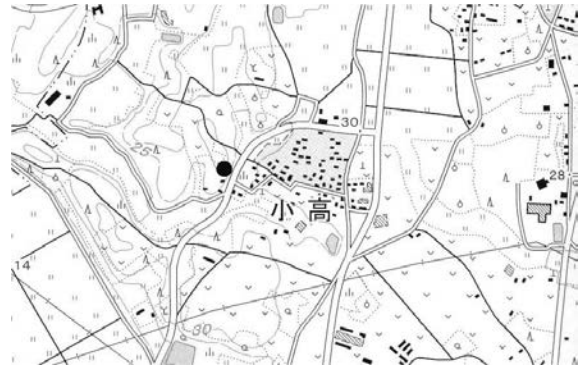
調査日 令和4年2月22日・24日・25日、
3月1日・2日・4日

調査面積 1036.95㎡

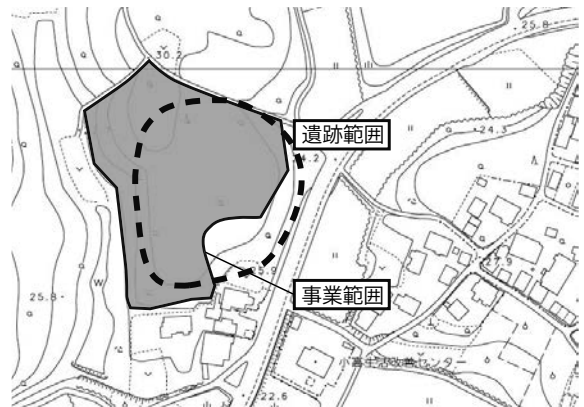
調査概要

トレンチは17本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約25～70cmである。10本のトレンチから、縄文時代の竪穴建物跡1軒、弥生時代～古墳時代の竪穴建物跡13軒、土坑2基、平安時代の竪穴建物跡1軒が検出された。遺物は、旧石器時代の石器剥片、縄文土器、磨石、弥生土器、古墳時代前・後期の土師器、雲母片岩の板石、平安時代の土師器・須恵器、近世瀬戸美濃系陶器が出土した。

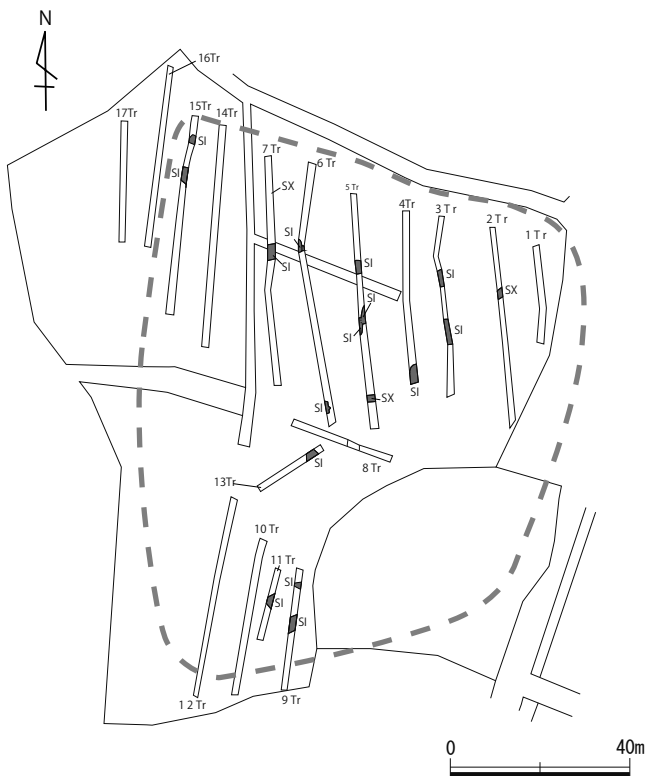
措置 遺構に影響のない工法のため保存。



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



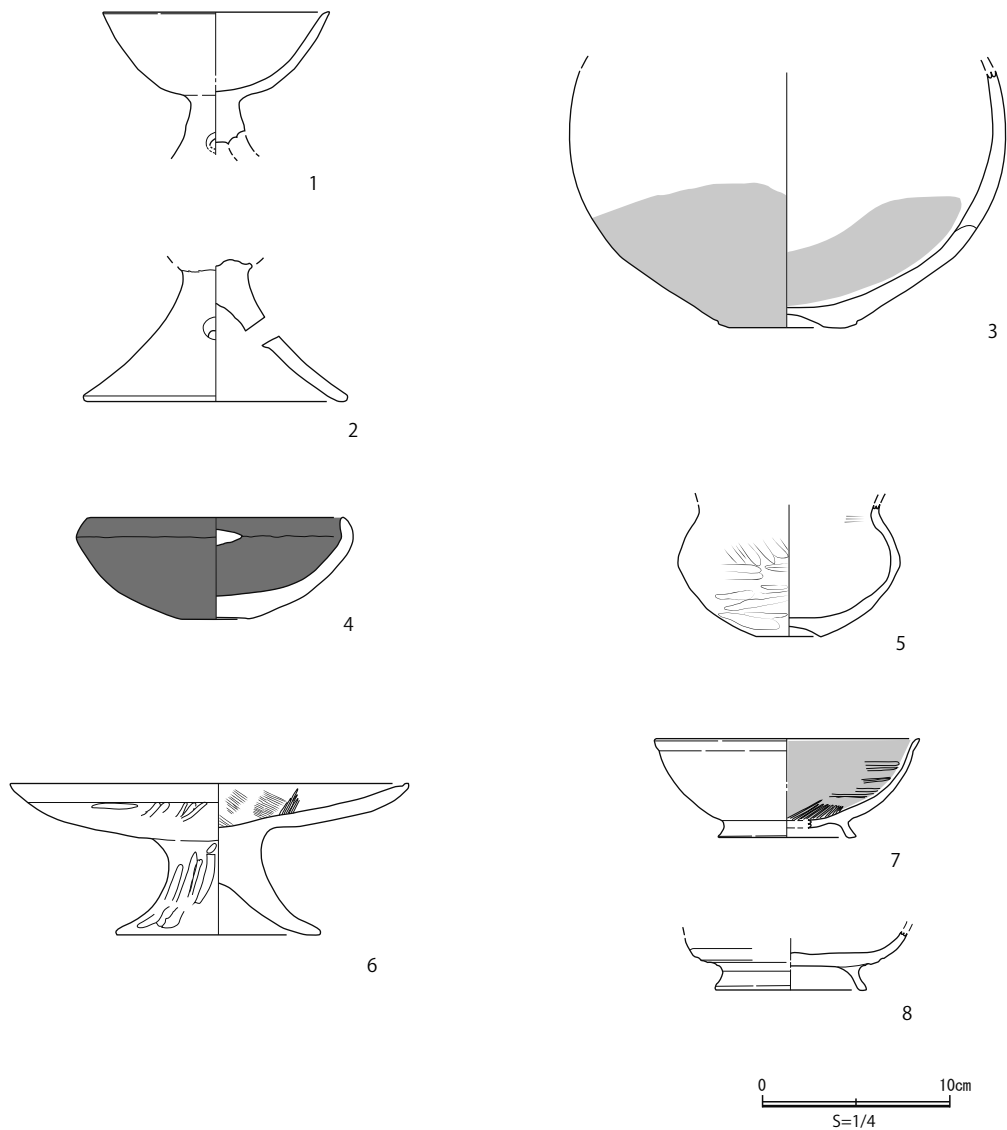
遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



全景



4 トレンチ



出土遺物実測図：

1～3は古墳時代前期の土師器。1は高杯の杯部。口縁部ヨコナデ。外面はケズリ。2は高杯の脚部。裾部はヨコナデ。外面はミガキ。3は甕。下半部は内外面ともに黒色化している。4～5は古墳時代中期の土師器。4は杯で内外面ともに赤彩。口縁部はヨコナデ。体部はケズリ。5は埴。外面はミガキ。6～8は平安時代の土師器。6は高杯。口縁部はヨコナデ、内外面は細かいミガキ。7は高台付椀。内面はミガキのち黒色処理。

38. 藤沢陣場遺跡 (465 - 031)

所在地 土浦市小高76番

現況 屋敷内

立地 天王川南岸の台地上。標高28～29m。

原因 個人住宅建築

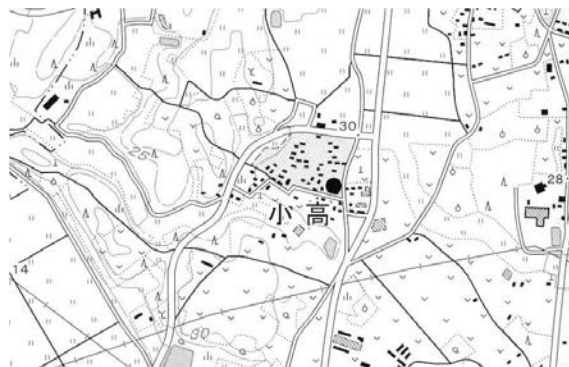
調査日 令和4年3月9日

調査面積 8㎡

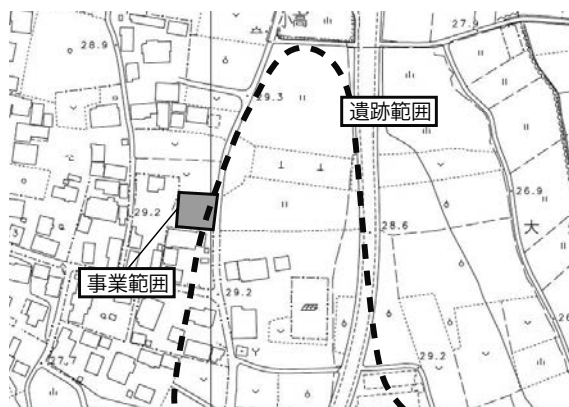
調査概要

トレンチは遺構外も含め8本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約40cmである。遺構や遺物は検出されなかった。

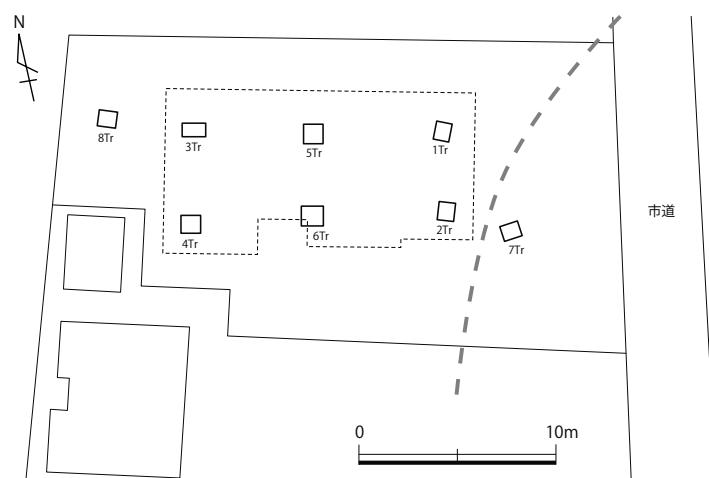
措置 遺跡範囲除外。



遺跡の位置 (常陸藤沢 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



全景



5トレンチ

39. 永国御灵遺跡 (203 - 152) 隣接地

所在地 土浦市永国 550 番 4

現況 更地

立地 花室川左岸の台地上。標高 24 ~ 25 m。

原因 個人住宅建築

調査日 令和 4 年 3 月 10 日

調査面積 9 m²

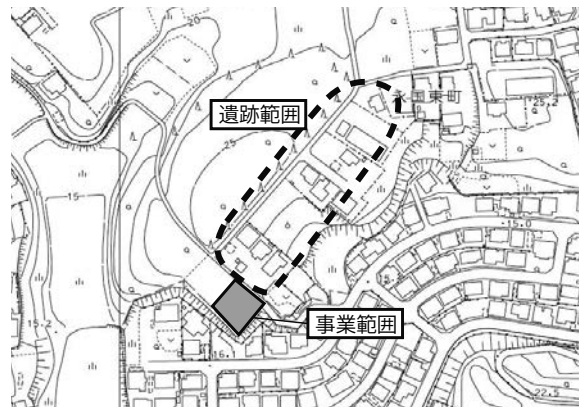
調査概要

トレンチは 9 本設定した。遺構確認面はローム層上面で、地表面からの深さは約 25 ~ 45cm である。遺構や遺物は確認されなかった。

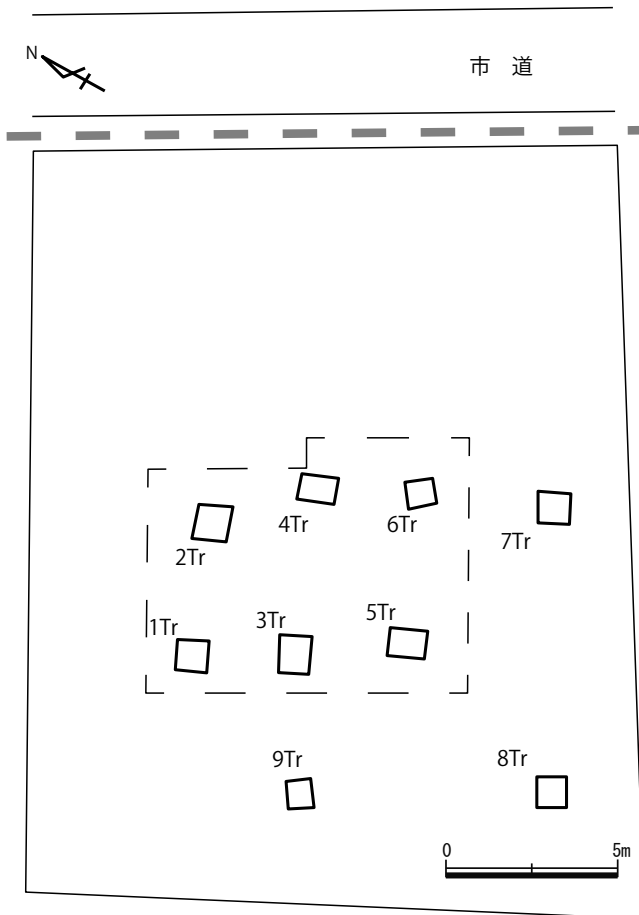
措置 遺構未検出のため、慎重工事を依頼した。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



全景

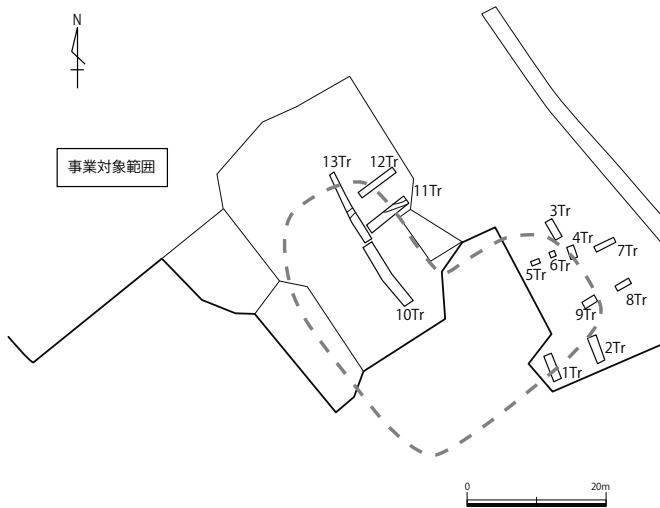


9 トレンチ

40. 虫掛二又遺跡 (203 - 277)

所在地 土浦市虫掛 284 外
現況 荒蕪地・山林・畑地
立地 桜川左岸の自然堤防上。標高 2.2 m。
原因 県営土地改良事業
調査日 令和 4 年 3 月 16 日・17 日・23 日
調査面積 61.26m²
調査概要

トレンチは遺構外を含め 13 本設定した。遺構確認面は砂層上面で、地表面からの深さは約 55～70cm である。1 本のトレンチから、時期不明の溝 1 条が検出された。遺物は、時期不明の土器が出土した。
措置 遺跡範囲除外。



遺跡の位置 (土浦 1/25,000)



遺跡範囲と事業範囲 (1/5,000)



2 トレンチ



11 トレンチ

第2節 発掘調査

41. 下高津小学校遺跡（第5次調査）—個人住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告—

例言

1. 本編は個人住宅建築事業に伴う、土浦市下高津四丁目738-1に所在する下高津小学校遺跡の発掘調査報告である。本調査は第5次となる。
2. 発掘調査は、土浦市教育委員会が実施した。調査期間は、令和3（2021）年5月25日から5月29日、調査面積は45㎡である。
3. 発掘調査は、亀井翼（上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員）が担当した。報告書の図版作成・執筆・編集は、黒澤春彦（同再任用職員）と石田温美・浅野孝利（同会計年度任用職員）が行った。遺物実測は比毛君男（同学芸員）が担当した。
4. 当遺跡調査に関する資料は、上高津貝塚ふるさと歴史の広場に保管している。遺物の記録や整理、保管に際して「SS5」の略号を使用している。遺構番号については、これまでの発掘調査の遺構番号を踏襲し、今回発見された竪穴建物跡は第18号とする。

1. 調査に至る経緯と経過

当事業地は、周知の遺跡である下高津小学校遺跡の範囲内であることから、令和3年4月23日に確認調査を実施したところ、保護対象となる埋蔵文化財が発見された。協議の結果、建物箇所は盛土保存、切土する部分については発掘調査を行うことになった。文化財保護法に基づく第93条の発掘調査の届出は、令和3年5月18日付第525号で茨城県教育委員会教育長（以後県教育長）に進達した。発掘調査は令和3年5月25日から開始し、第99条発掘調査の報告を、5月27日付第555号にて県教育長宛てに提出した。発掘調査は5月29日で終了し、発掘調査終了確認は、6月3日付第591号にて県教育長宛てに、埋蔵物発見届は、6月3日付第590号で土浦警察署長宛てに提出した。

2. 環境

下高津小学校遺跡は、桜川右岸の筑波稲敷台地上に存在する。調査区は、桜川河口から3.5kmに位置し、標高23m、樹枝状に入り込んだ谷を南に臨む台地縁辺部に立地する。谷低地との比高差は12mを測る。周辺は宅地化が進み、発掘調査や確認調査が多く行われ、今回の調査は第5次となる。

近接地の調査では、古墳時代後期、奈良・平安時代の遺構や遺物が発見されている。谷を挟んだ南の台地上の龍善寺遺跡からは、縄文時代中期の大規模集落、西側の寄居遺跡とうぐいす平遺跡からは、弥生時代後期から中世にかけての集落などが発見されている。また、調査区の北200mには、古代東海道駅路の推定地がある。層序は北壁で確認した。2度にわたり厚く盛土され、盛土下は整地のために削平された様相を呈する。遺構確認面は、東側がローム面、西側では褐色土層である。



第1図 調査位置図 (1/25000)



第2図 調査区範囲図 (1/5000)

3. 遺構と遺物

今回の調査で発見されたのは、古墳時代後期の竪穴建物跡1棟である。南側と東側は攪乱が激しく、遺存状態は悪い。西側に竪穴建物状の落ち込みが確認されたが、性格は不明である。

第18号竪穴建物跡 (SI-18: 第3図)

主軸 N-48°-E

規模 竈を壁の中央とすると、確認状況での上端1辺7m前後と推定される。

壁 床面から確認面までの深さは、北壁セクションでは30cm程度を測る。南側や東側は攪乱により立ち上がりは確認されなかった。

柱穴 当建物跡の柱穴と考えられるのはP1である。

竈 北西壁に構築され、規模は全長1.4m、焚口幅0.6mを測る。袖は粘土で構築されている。燃床部から土製支脚が出土した。

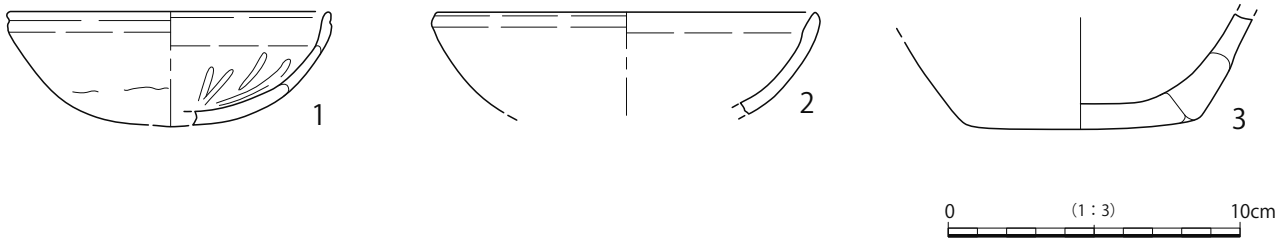
覆土 2層に分層された。焼土粒、ローム粒、砂を含む暗褐色土、ローム塊を含む褐色土である。

遺物 遺物は少なく、土師器甕や杯、土玉が出土した。

所見 出土遺物から、古墳時代後期(7世紀)の竪穴建物跡と考えられる。

4. まとめ

今回の調査では、古墳時代後期、7世紀代の竪穴建物跡が発見された。下高津小学校遺跡やその周辺は7世紀代から8世紀前半の遺跡が多い。市内において、この時期の遺跡は前後の時期に比べると少ない一方、ここは集中するエリアである。近くには、古代東海道駅路や駅家の存在が考えられており、この時期の遺構が多いことは、これらの存在を裏付ける資料の一つとなるであろう。

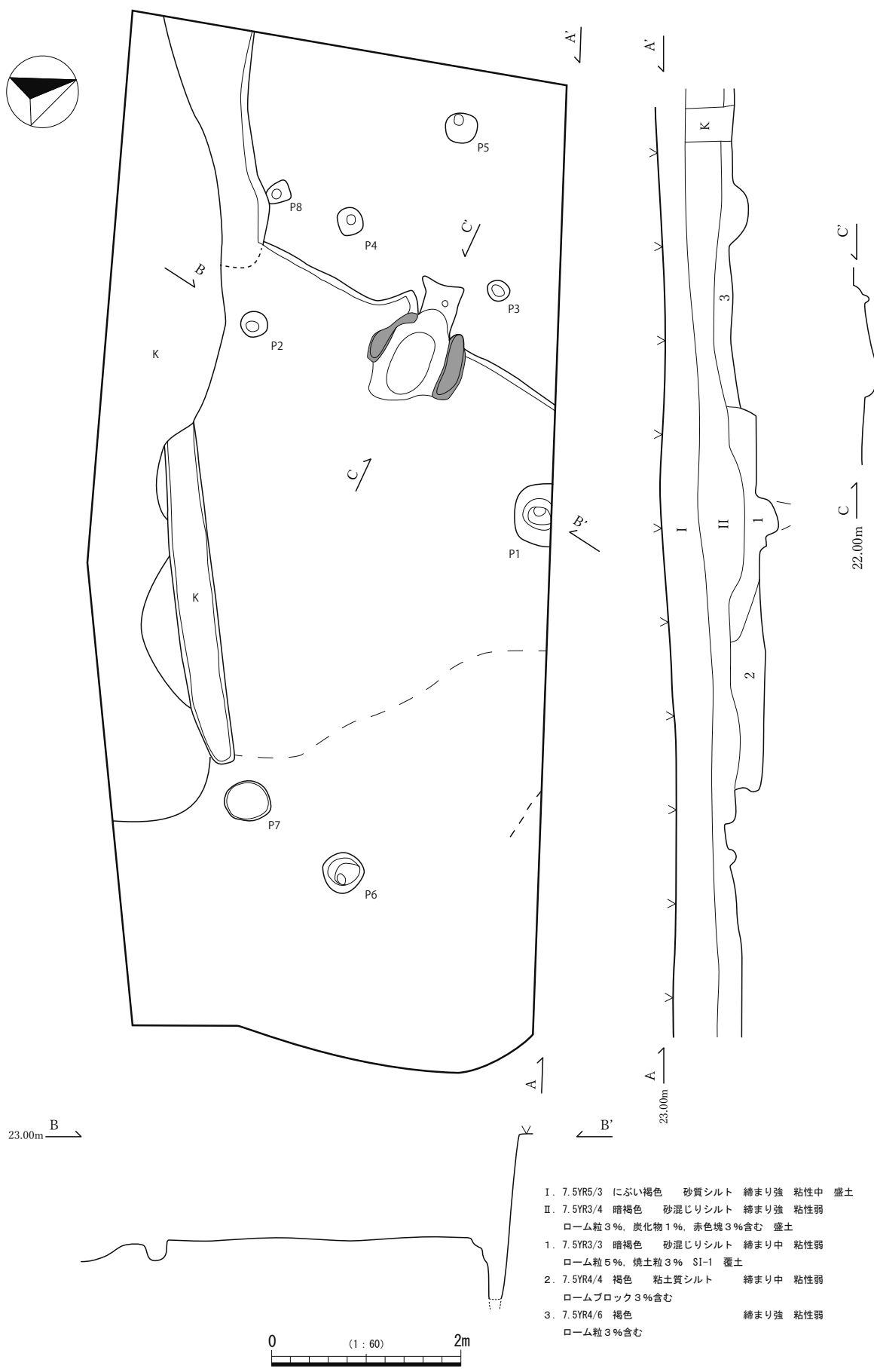


第3図 出土遺物

遺物観察表

A:口径 B:器高 C:底径 D:幅 E:長さ [復元] (残存)

No.	器種	法量 (cm)	器形の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考・残存率
1	土師器杯	A: [11.2] B: (3.9)	口縁部端下に僅かに稜をもつ。口縁部は内傾気味に短く立ち上がり、端部が鋭くなる。	外面ヨコナデ、ヘラケズリ。内面ヨコナデ、ミガキ。	雲母多量、長石・石英を中量含む。褐灰 (7.5YR5/1) 焼成普通	口縁部 25%
2	土師器杯	A: [13.1] B: (3.5)	口縁部端下に僅かに稜をもつ。口縁部は内傾気味に短く立ち上がり、端部が鋭くなる。	外面ヨコナデ、ヘラケズリ。内面ヨコナデ、ミガキ。	雲母多量、長石・石英を中量含む。にぶい橙 (5YR6/4) 焼成普通	口縁部 20%
3	土師器甕	B: 8.0 C: (3.8)	体部は外傾しながら立ち上がる。	外面ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	雲母・長石・石英を少量含む。にぶい橙 (5YR6/4) 焼成普通	底部 100%



第4図 調査区全体図・遺構図

42. 大畑本田遺跡（第2次調査）—個人住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告—

例言

1. 本編は個人住宅建築事業に伴う、土浦市大畑 829 - 2 に所在する大畑本田遺跡の発掘調査報告である。当調査は第2次となる。
2. 発掘調査は、土浦市教育委員会が実施した。調査期間は、令和3（2021）年7月7日から7月29日、調査面積は70㎡である。
3. 発掘調査は、比毛君男（上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員）が担当した。報告書の図版作成・執筆・編集は、黒澤春彦（同再任用職員）、一木絵理（同学芸員）、浅野孝利・石田温美（同会計年度任用職員）が行った。遺物実測は比毛君男が担当した。
4. 当遺跡調査に関する資料は、上高津貝塚ふるさと歴史の広場にて保管している。遺物の記録や整理、保管に際して「OOH2」の略号を使用している。

1. 調査に至る経緯と経過

当事業地は、周知の遺跡である大畑本田遺跡の範囲内であることから、令和3年5月7日に確認調査を実施したところ、保護対象となる埋蔵文化財が発見された。協議の結果、保存が図れない箇所について発掘調査を行うことになった。文化財保護法に基づく第93条の発掘調査の届出は、令和3年6月11日付第636号で茨城県教育委員会教育長（以後県教育長）に進達した。発掘調査は令和3年7月7日から開始し、第99条発掘調査の報告を、7月13日付第740号にて県教育長宛てに提出した。発掘調査は7月29日で終了し、発掘調査終了確認は、8月3日付第810号にて県教育長宛てに、埋蔵物発見届は、8月3日付第811号にて土浦警察署長宛てに提出した。

2. 環境

大畑本田遺跡は、桜川左岸の新治台地上に存在する。調査区は、桜川河口から7kmに位置し、標高28m、Y字状に入り込んだ谷の北側台地上に立地する。谷低地との比高差は11mを測る。

近接地の調査では、本調査区の南隣から、縄文中期の袋状土坑が検出された（第1次調査）。今回の調査とほぼ同時期の遺跡であり、周辺の遺物の散布状況からも、広範囲にわたって縄文中期の集落が展開していると思われる。本遺跡内には、ヤマトシジミやハマグリで構成される大畑貝塚がある。また、谷の分岐の低地に立地する大畑前田遺跡からは、縄文中期から後期の土器や、磨製石斧などが多く出土している。

土層は、耕作地（表土）が70～90cm堆積し、その下層が遺構確認面である。



第1図 調査位置図 (1/25000)



第2図 調査区範囲図 (1/5000)

3. 発見された遺構と遺物

調査区南東を中心に遺構が集中しているが、不明瞭な落ち込みが広がり、小規模な土坑やピットが点在している状態で、明確な建物跡は確認できなかった。土器埋設炉が1か所検出されたが、建物跡に伴う可能性がある。検出された遺構の時期は、出土遺物や覆土から縄文時代中期、阿玉台Ⅲ式～加曾利EⅣ式期と思われる。

第1号竪穴遺構 (SI-1)

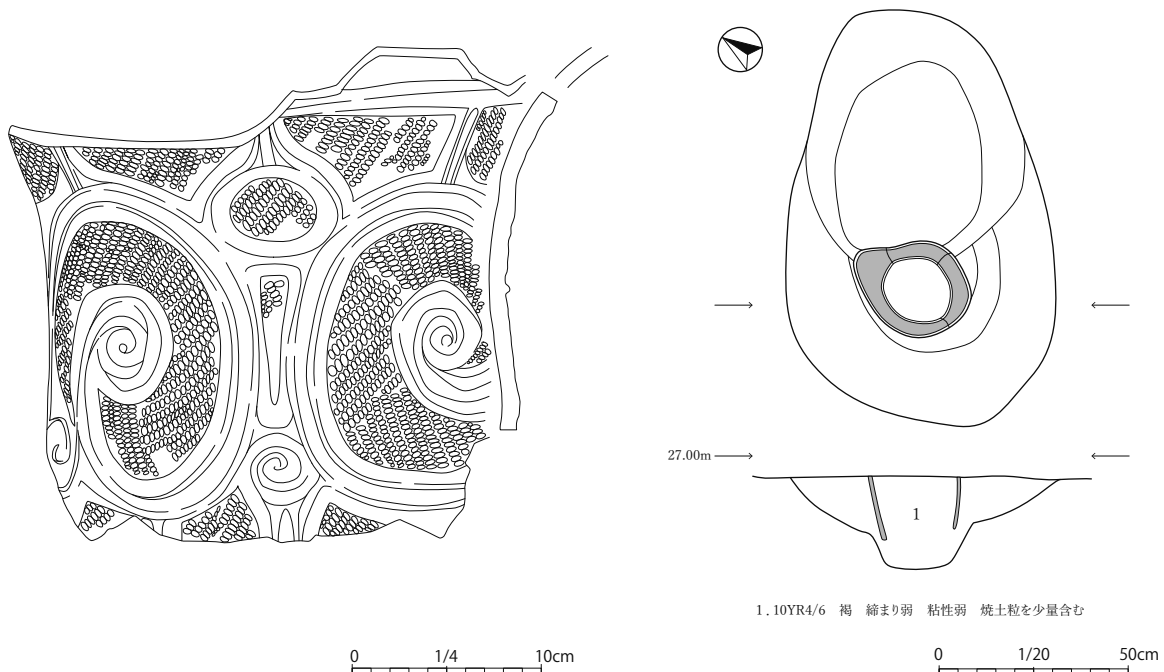
南東壁際に位置する。約2.5m四方、確認面からの深さ0.3mを測る。規模や形状から住居とは考えにくい。覆土は含有物の少ない褐色土である。出土遺物から縄文時代中期、阿玉台Ⅲ式～加曾利EⅣ式期と思われる。

第2号竪穴遺構 (SI-2)

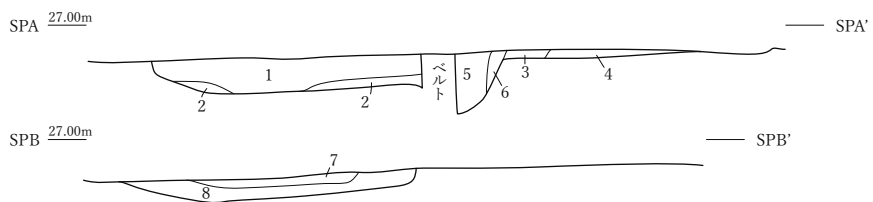
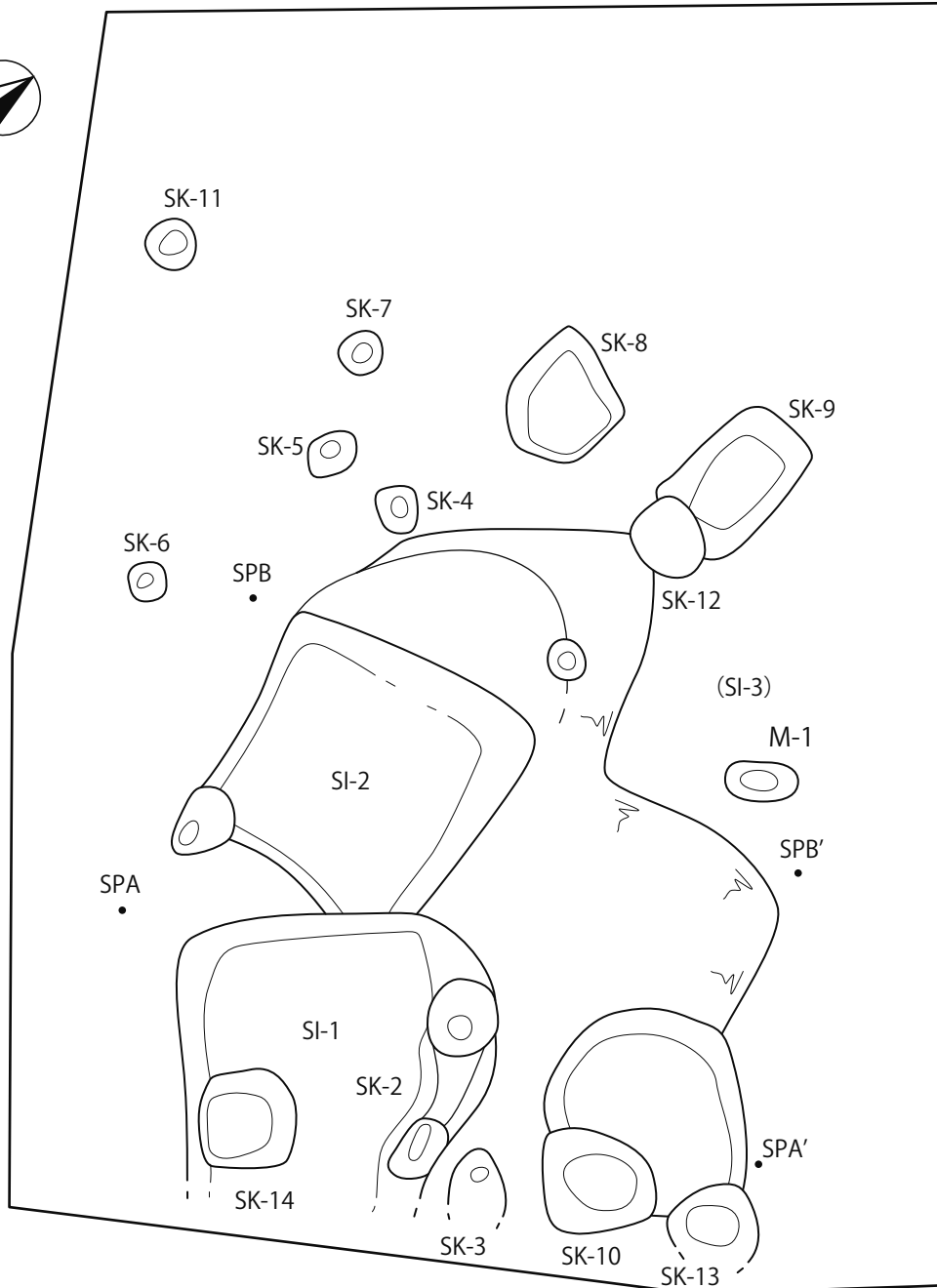
調査区中央よりやや南東に位置する。一辺2.1m、深さ0.15mの浅い掘り込みである。第1号と同様の形状である。出土遺物は胴部片1点だけであるが、縄文時代中期後半、加曾利EⅢ式期以降と思われる。

土器埋設炉 (M-1)

調査区北東に位置する。南側はピットと重複している。掘り込みの規模は0.8×0.7m、深さ0.25mを測る。埋設された土器は、縄文時代中期後半の深鉢で、正位の状態出土した。口縁部は削平等により消失したと思われ、底部は欠損している。口縁部は無文で2本の沈線が施され、胴部は4単位の大きな渦巻文が配置される。加曾利EⅢ式か。



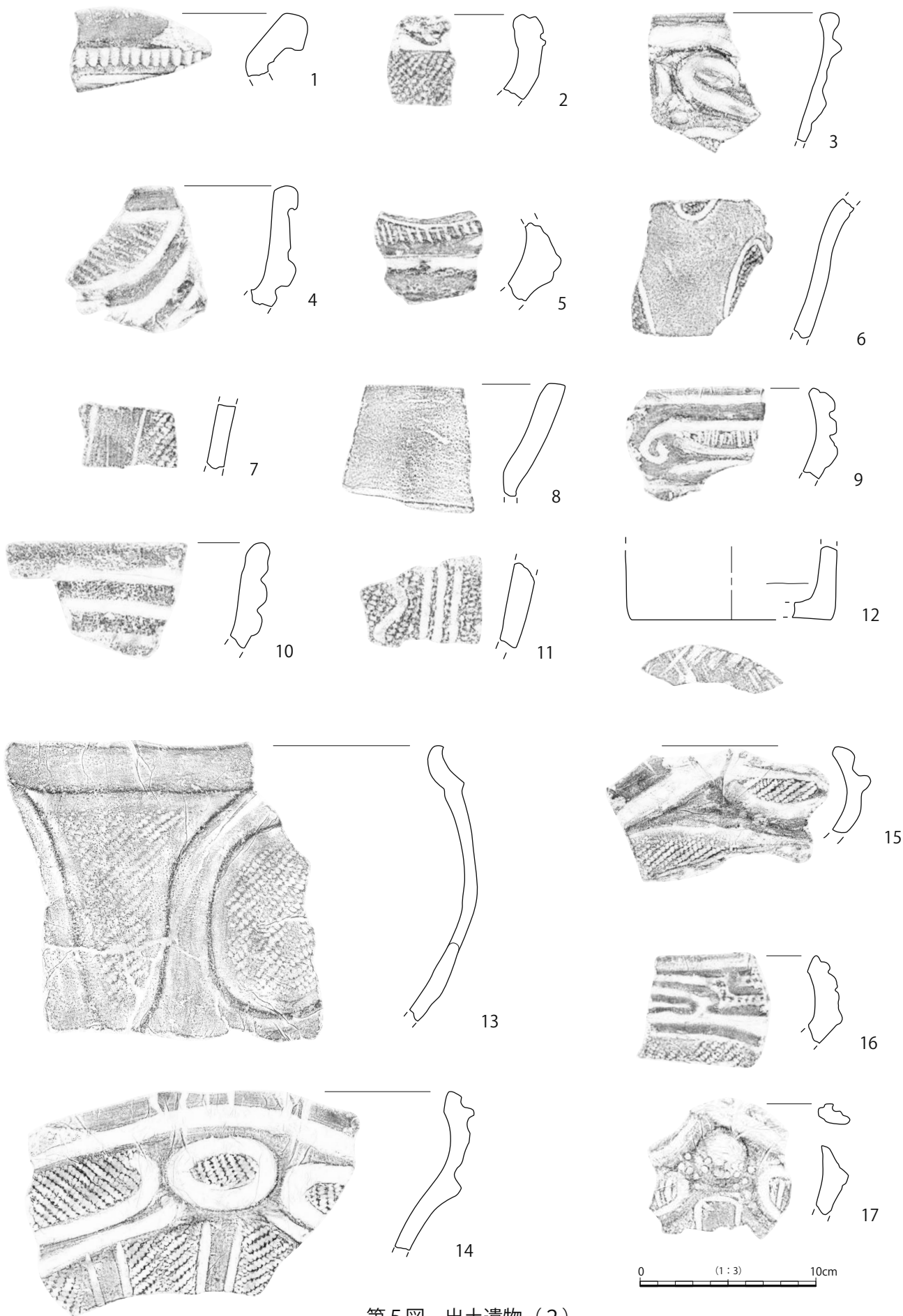
第3図 土器埋設炉 出土遺物(1)・遺構図



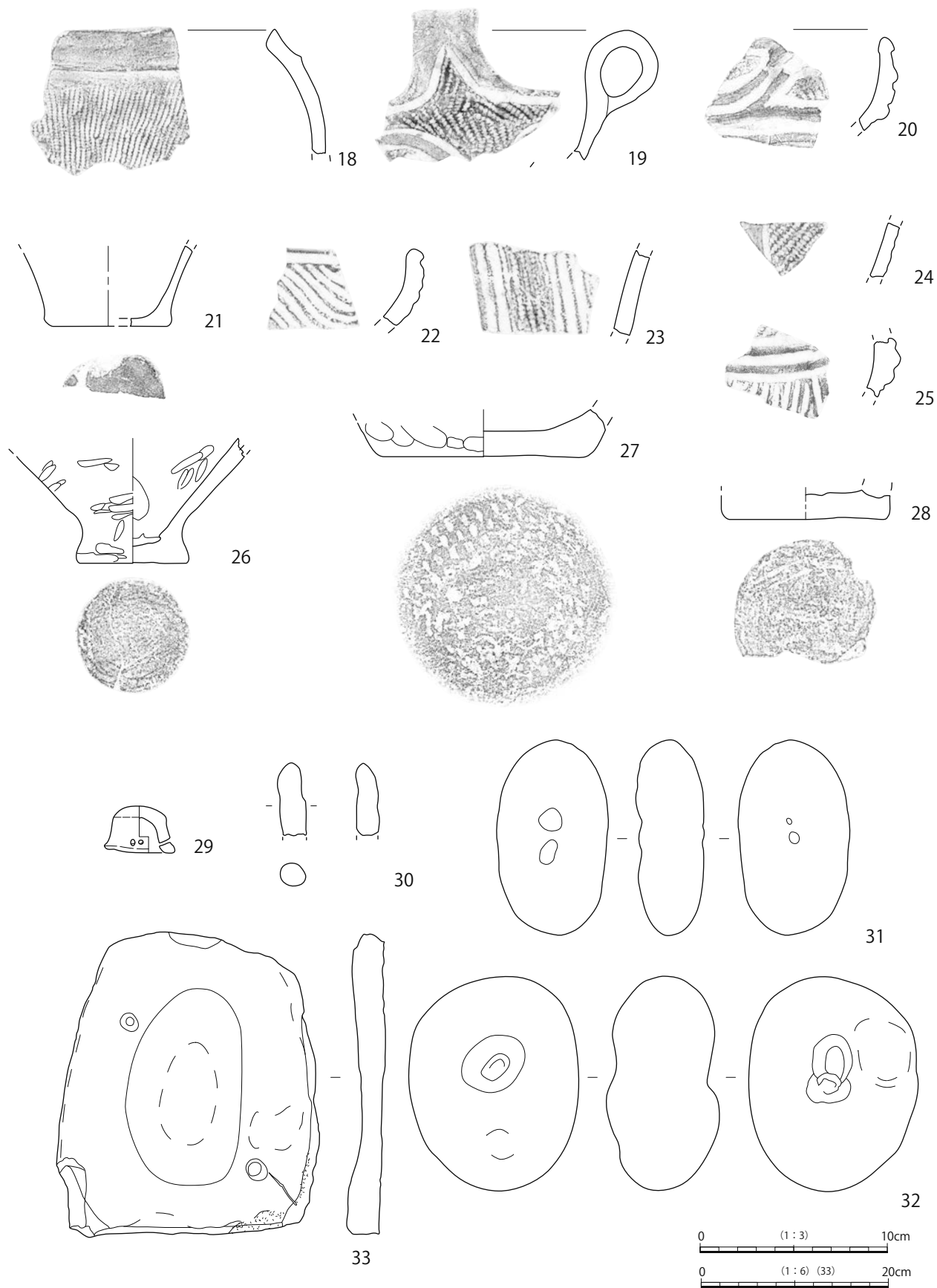
- | | | | |
|------------|-------|-------|-----------------------|
| 1. 10YR4/4 | 褐 | 締まり強 | 粘性弱 |
| 2. 10YR4/6 | 褐 | 締まり強 | 粘性中 |
| 3. 10YR4/6 | 褐 | 締まり弱 | 粘性弱 焼土粒を中量, 炭化物粒を少量含む |
| 4. 10YR4/3 | にぶい黄褐 | 締まり普通 | 粘性弱 |
| 5. 10YR3/3 | 暗褐 | 締まり弱 | 粘性なし |
| 6. 10YR4/4 | 褐 | 締まり普通 | 粘性なし 焼土粒を少量含む |
| 7. 10YR5/8 | 黄褐 | 締まり普通 | 粘性なし ローム粒を多量に含む |
| 8. 10YR4/4 | 褐 | 締まり強 | 粘性なし |

0 1/80 2m

第4図 全体図・遺構図



第5図 出土遺物（2）



1~6・31: SI-1 7: SI-2 8・30: SI-3 9: SK-7 10~12: SK-8 13~21: SK-10
 22~23: SK-11 24: SK-13 25: SK-14 29: SK-12 26~28・32: 一括 33:表採

第6図 出土遺物(3)

出土遺物

1～6は、SI-1から出土した縄文土器片である。1・5は隆帯に沿って角押文が施される。阿玉台Ⅲ式か。2・3は幅の広い沈線と縄文が施される。4は隆帯と区画内に縄文が施される。6は逆U字状の単位文および磨消縄文が施される。加曽利EⅣ式か。7は、SI-2から出土した縄文土器の胴部片で、磨消縄文が施される。加曽利EⅢ式以降。

8はSI-3から出土した縄文土器口縁部片で無文である。SI-3からは他に30の棒状の土製品も出土している。9はSK-7から出土した縄文土器片で渦巻文と区画内に沈線が施される。10～12はSK-8から出土した縄文土器片で、10は3本の隆帯が施される口縁部片、11は縄文に蛇行沈線、縦位の沈線が施される胴部片、12は深鉢の底部片である。13～21はSK-10から出土した縄文土器片である。13は磨消縄文が施される。加曽利EⅢ～Ⅳ式か。14は沈線で円と楕円形の区画が施され、胴部は懸垂文、磨消縄文が施される。加曽利EⅡ～Ⅲ式。15は区画内に縄文が施され、突起をもつ。16はクランク状の隆帯を持つ。加曽利EⅠ式。17は波状口縁の中心に孔があげられ、周囲に刺突が施される。加曽利EⅢ式。18は口縁部に無文および縄文が施される。19は環状の把手がつき、沈線、縄文が施される。20は隆帯および縄文が施される。21は浅鉢の底部片。22・23はSK-11から出土した縄文土器片で、22は文様間に沈線が施される口縁部片、23は縄文および沈線が施される胴部片である。24は、SK-13から出土した磨消縄文が施された胴部片である。25はSK-14から出土した文様間に沈線が施された口縁部片である。29はSK-12から出土した、ミニチュアの台形土器である。対面する方向の2か所に2つずつ孔があげられている。外面は滑らかに調整されているが、内面はほとんど調整されていない。26～28は一括資料で、浅鉢ないし深鉢の底部片である。

石器については、磨石・敲石、石皿の3点があり、第1表の通りである。

第1表 石器観察表

No.	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (kg)	出土地点	石材
31	磨石・敲石	103	59	35	0.28	SI-1	安山岩
32	磨石・敲石	114	91	51	0.59	一括	安山岩
33	石皿	319	269	23	6.5	表採	雲母片岩

4. まとめ

出土遺物から縄文時代中期、阿玉台Ⅲ式～加曽利EⅣ式期に相当すると考えられる遺構が確認された。出土土器はおおよそ縄文時代中期後半加曽利E式が主体と考えられる。

43. 形部遺跡（第2次調査）—個人住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告—

例言

1. 本編は個人住宅建築事業に伴う、土浦市右粍 1111 - 25 に所在する形部遺跡の発掘調査報告である。本調査は第2次となる。
2. 発掘調査は、土浦市教育委員会が実施した。調査期間は、令和3（2021）年12月7日から12月14日、調査面積は60㎡である。
3. 発掘調査は、比毛君男（上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員）が担当した。報告書の図版作成・執筆・編集は黒澤春彦（同再任用職員）、石田温美・浅野孝利（同会計年度任用職員）が行った。遺物実測は比毛が担当した。
4. 当遺跡調査に関する資料は、上高津貝塚ふるさと歴史の広場にて保管している。遺物の記録や整理、保管に際して「MK2」の略号を使用している。遺構番号については、これまでの発掘調査の遺構番号を踏襲し、今回発見された竪穴建物跡は第13号とする。

1. 調査に至る経緯と経過

当事業地は、形部遺跡に隣接することから遺跡が広がっていることを想定し、令和3年9月30日に試掘確認調査を実施した。結果、保護対象となる埋蔵文化財が発見され、協議の結果、保存が図れないことから発掘調査を行うこととなった。

文化財保護法に基づく第93条の発掘調査の届出は、令和3年11月26日付第1157号で茨城県教育委員会教育長（以後県教育長）に進達した。発掘調査は令和3年12月7日から開始し、第99条発掘調査の報告を、12月7日付第1216号にて県教育長宛てに提出した。発掘調査は12月14日で終了し、発掘調査終了確認は、12月17日付第1256号にて県教育長宛てに、埋蔵物発見届は、12月17日付第1255号で土浦警察署長宛てに提出した。

2. 環境

形部遺跡は、桜川右岸の筑波稲敷台地上に存在する。調査区は、花室川河口から約4kmに位置し、標高24.5m、南に深く入り込み樹枝状に広がる谷の東側台地上に立地する。谷部低地との比高差は15mを測る。調査区のある台地幅は約150mである。

本調査区北側で実施した1次調査では、縄文時代前期1軒、古墳時代後期の竪穴建物跡11軒が検出された。谷を挟んだ北西の台地上にある向原遺跡からは、縄文時代の陥穴、古墳時代前期から後期の集落跡、終末期古墳2基などが検出されている。同じ台地の南東の中根遺跡からは、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物跡が4軒検出された。

層序は、表土が20～30cm、その下層にローム層が堆積している。遺構確認面はローム層である。



第1図 遺跡の位置（土浦 1/25,000）



第2図 遺跡範囲と事業範囲（1/5,000）

3. 発見された遺構と遺物

第13号竪穴建物跡 (SI-13: 第4図)

主軸 N - 55° - E

規模 北西壁の上端1辺6m、下端5.7mであることから、上端面積36㎡、床面積は32.5㎡前後と推定される。

壁 ほぼ垂直に立ち上がり、床面から確認面までの深さは、 cmを測る。

柱穴 当建物跡の柱穴と考えられるのはP1～P3である。柱穴間は約2.8mである。

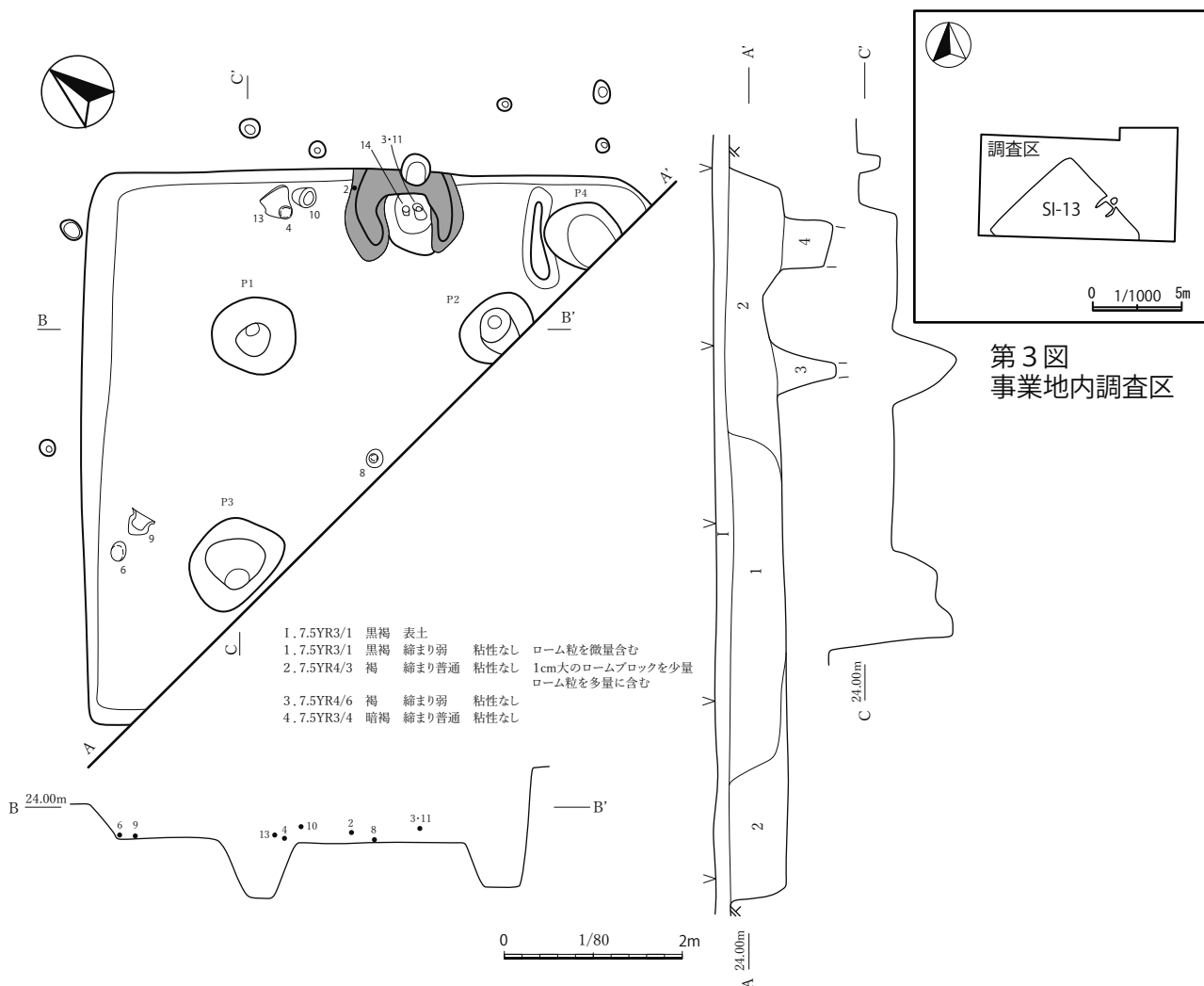
貯蔵穴 竈脇に構築されている (P4)。竈側に高さ10cm 幅30cmの土手状の高まりがある。

竈 北西壁に粘土で構築され、天井部の一部が残存する。規模は全長12m、焚口幅0.5mを測る。燃床部に土製支脚が設置されている。竈から甕が置かれた状態で出土した。

覆土 中央に黒色土、壁際はロームブロックや多量のローム粒を含む褐色土が堆積している。

遺物 竈北西側の壁際の床面から甕、甕、杯、北西壁際の床面から甕、杯が出土した。竈内からは、小型の甕(11)が置かれた状態で出土し、その甕の中に杯(3)が入っていた。

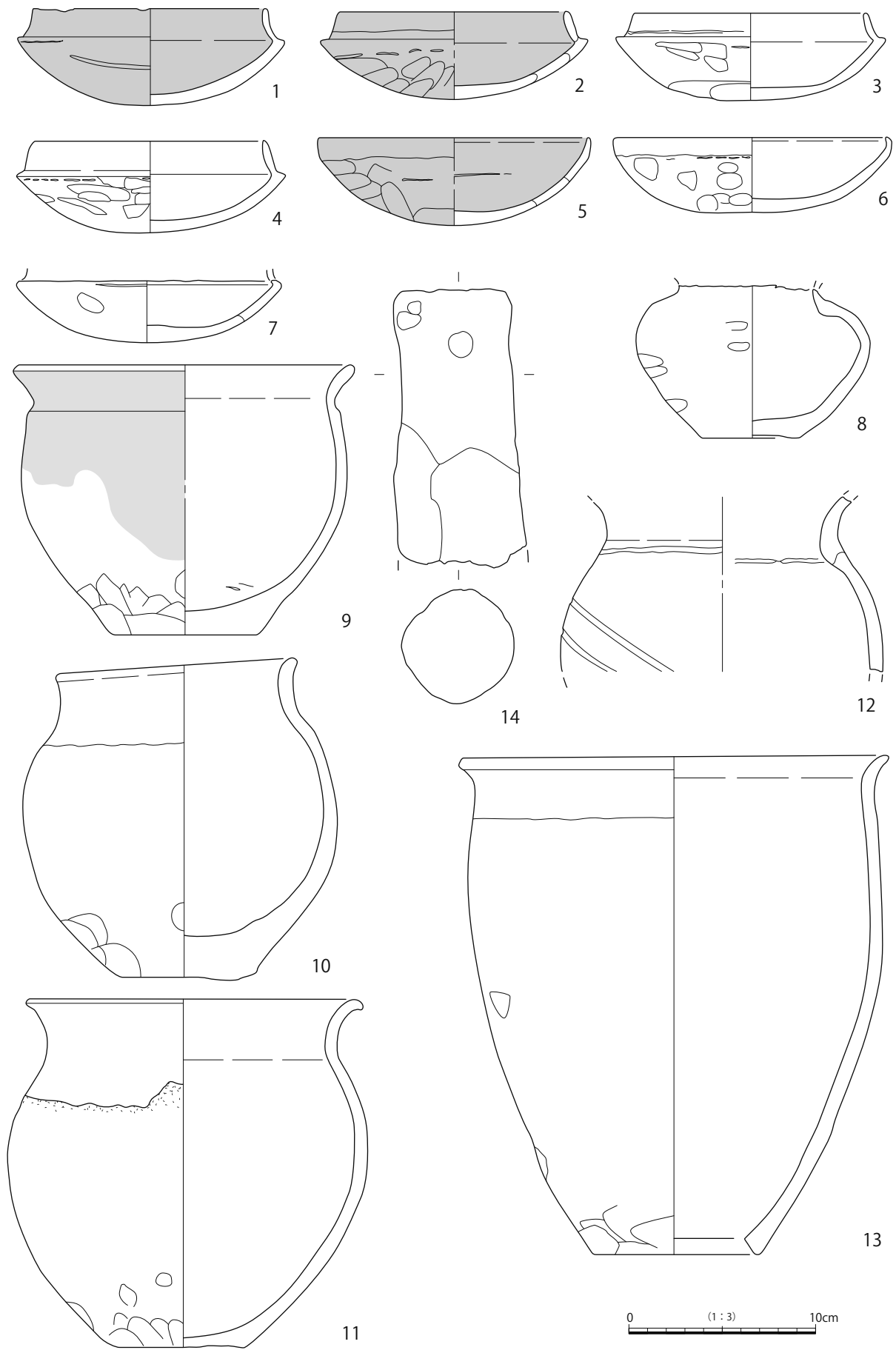
所見 出土遺物から、古墳時代後期、6世紀後半の竪穴建物跡と考えられる。



第4図 第13号竪穴建物跡

4まとめ

1次調査では古墳時代後期の竪穴建物跡が11軒検出された。今回調査された建物跡も同じ集落と思われる、古墳時代後期の集落が南に延びていることが判明した。



第5図 出土遺物

遺物観察表

A：口径 B：器高 C：底径 D：幅 E：長さ〔復元〕(残存)

No.	器種	法量 (cm)	器形の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考・残存率
1	土師器杯	A：12.6 B：5.2	須恵器模倣の杯。器受け部が張り出し、口縁部は内傾する。	外面ヨコナデ、ヘラケズリ。 内面ヨコナデ、ヘラナデ。	長石・石英・雲母・赤色スコリアを中量含む。外) におい橙 (7.5YR6/4) 内) 黒褐 (7.5YR3/1) 焼成良好	内外面黒色処理 75%
2	土師器杯	A：〔12.4〕 B：4.8"	須恵器模倣の杯。器受け部が張り出し、口縁部は内傾する。	外面ヨコナデ、ヘラケズリ。 内面ヨコナデ、ヘラナデ。	長石・石英・雲母・赤色スコリアを少量含む。外) におい褐 (7.5YR6/3) 内) におい橙 (7.5YR6/4) 焼成良好	内外面黒色処理 45%
3	土師器杯	A：12.5 B：4.7	須恵器模倣の杯。器受け部が張り出し、口縁部は内傾する。	外面ヨコナデ、ヘラケズリ。 内面ヨコナデ、ヘラナデ。	長石・石英・雲母・赤色スコリアを少量含む。外) 黄灰 (2.5Y5/1) 内) 暗灰黄 (2.5Y5/2) 焼成良好	竈内・11 の内部 95%
4	土師器杯	A：12.4 B：5.0	須恵器模倣の杯。器受け部が張り出し、口縁部は内傾する。	外面ヨコナデ、ヘラケズリ。 内面ヨコナデ、ヘラナデ。	長石・石英・雲母・赤色スコリアを少量含む。におい橙 (7.5YR6/4) 焼成良好	95%
5	土師器杯	A：〔14.6〕 B：4.7	口縁部端下に僅かに稜をもつ。口縁部は内傾気味に短く立ち上がり、端部が鋭くなる。	外面ヨコナデ、ヘラケズリ。 内面ヨコナデ、ヘラナデ。	長石・石英・雲母・赤色スコリアを少量含む。におい橙 (7.5YR6/4) 焼成良好	40%
6	土師器杯	A：14.6 B：4.0	口縁部端下に僅かに稜をもつ。口縁部は内傾気味に短く立ち上がり、端部が鋭くなる。	外面ヨコナデ、ヘラケズリ。 内面ヨコナデ。	長石・石英・雲母・赤色スコリアを少量含む。外) におい黄橙 (10YR6/4) 内) におい橙 (7.5YR6/4) 焼成良好	内面剥落激しい 完形
7	土師器杯	B：(3.3)	須恵器模倣の杯。器受け部が張り出す。口縁部は欠損。	外面ヨコナデ、ヘラケズリ。 内面ヨコナデ、ヘラナデ。	長石・石英・雲母・赤色スコリアを少量含む。におい橙 (7.5YR7/4) 焼成良好	60%
8	土師器埴	B：(8.1) C：5.3	平底。最大径は体部上位にあり、肩部は強く張る。	底部ヘラケズリ。外面ヘラナデ、ヘラケズリ。内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・赤色スコリアを微量含む。におい橙 (7.5YR6/6) 焼成良好	外面黒色処理か 70%
9	土師器甕	A：〔18.4〕 B：14.5 C：7.6	体部は球形を呈す。頸部に稜をもち、口縁部は弧状に外反する。	底部ヘラケズリ。体部外面ヘラケズリ。体部内面ヘラナデ。口縁部ヨコナデ。	長石・石英・赤色スコリアを中量含む。外) 明赤褐 (2.5YR5/6) 内) におい橙 (5YR6/4) 焼成良好	スス付着 40%
10	土師器甕	A：12.8 B：16.7 C：7.3	体部は球形を呈し、口縁部は弧状に外反する。	底面ヘラケズリ。外面ヘラケズリ。内面ナデ。	長石・石英・雲母・チャート・赤色スコリアを中量含む。外) 赤 (10YR5/6) 内) におい黄橙 (10YR6/3) 焼成良好	90%
11	土師器甕	A：18.0 B：18.7 C：6.8	体部は球形を呈し、口縁部は強く外反する。	底面ヘラケズリ。外面ヘラケズリ。内面ナデ。胴部外面やや荒れる。	長石・石英・雲母・赤色スコリアを中量含む。外) 橙 (5YR6/6) 内) におい赤褐 (5YR5/4) 焼成良好	竈内 85%
12	土師器壺	B：9.3	体部は球形を呈し、頸部はゆるく外反する。	外面ヨコナデ、斜方向のヘラケズリ後ヘラナデ。内面ナデ。	長石・石英・赤色スコリア・チャートを中量含む。外) におい褐 (7.5YR5/3) 内) におい橙 (7.5YR6/4) 焼成良好	50%
13	土師器甌	A：23.0 B：26.8 C：9.0	単孔式。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は短く外反する。	外面ヨコナデ、ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	長石・石英・赤色スコリアを少量含む。橙 (7.5YR6/6) 焼成普通	95%
14	土製品支脚	D：6.6 E：(14.9)	円柱形を呈す。	側面ナデ、ユビオサエ。端面ナデ。器壁荒れる。	長石・石英・赤色スコリアを多量に含む。明褐 (7.5YR5/6) 焼成普通	竈内 下端部欠損

写真図版



表土除去作業状況



第17号竖穴建物跡（東から）



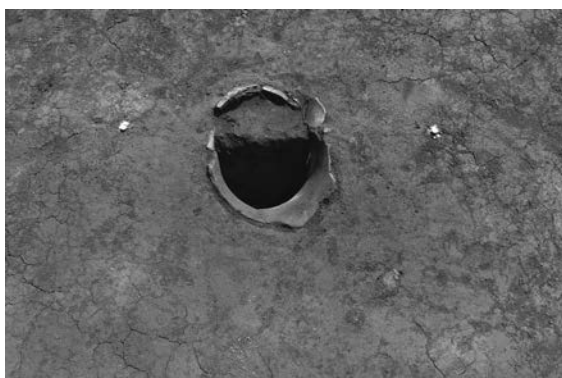
調査区全景



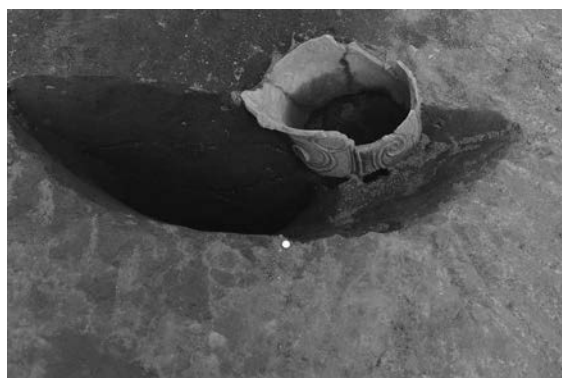
出土遺物（左は確認調査出土）



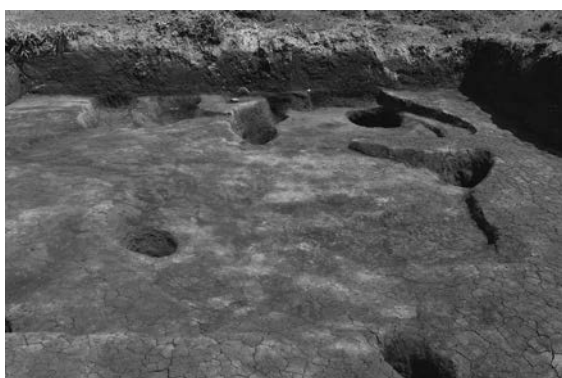
調査区南東（北東より）



土器埋設炉



土器埋設炉



調査区南東（北西より）

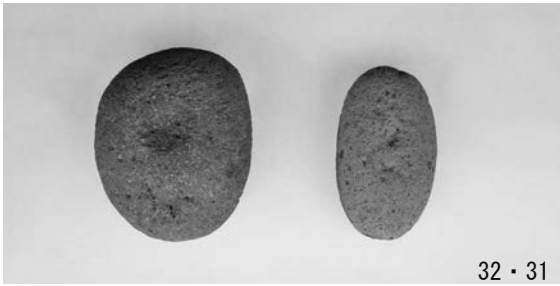
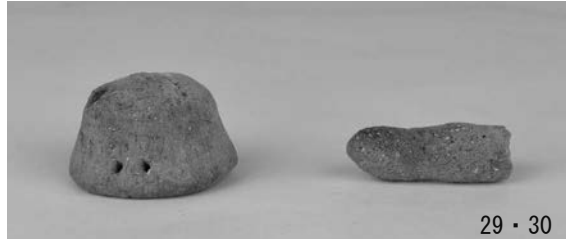


調査区南東（西より）

PL3



大畑本田遺跡（第2次調査）出土遺物



大畑本田遺跡（第2次調査）出土遺物



第12号竖穴建物跡完掘状況



竈完掘状況



竈内遺物出土状況



遺物出土状況



遺物出土状況

形部遺跡（第2次調査）



形部遺跡（第2次調査）出土遺物

報告書抄録								
ふりがな	れいわさんねんどつちうらしないいせきはくつちようさほうこくしよ							
書名	令和3年度土浦市内遺跡発掘調査報告書							
副書名								
シリーズ名								
巻次								
編集者名	黒澤春彦・石田温美・浅野孝利							
著者名	黒澤春彦・石田温美・比毛君男・亀井翼・一木絵理・浅野孝利							
編集機関	上高津貝塚ふるさと歴史の広場							
編集機関所在地	〒300-0811 茨城県土浦市上高津1843番地							
発行機関	土浦市教育委員会							
発行機関所在地	〒300-0036 茨城県土浦市大和町9番2号							
発行年月日	令和5年(2023年)3月24日							
所収遺跡名	所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
中高津西原遺跡隣接地	土浦市中高津二丁目238-2	203	98	36°04'21"	140°11'10"	20210414	42.5㎡	宅地分譲
下高津小学校遺跡	土浦市下高津四丁目734-17, 738-1, 737-2の各一部	203	100	36°07'36"	140°18'21"	20210423	50㎡	個人住宅建築
形部遺跡隣接地	土浦市右穂1111-1の一部	203	469	36°04'94"	140°18'16"	20210427	8.51㎡	個人住宅建築
宮脇B遺跡	土浦市上高津1211-1, 1211-2, 1211-5, 1211-4	203	122	36°04'20"	140°10'16"	20210428	7.0㎡	アパート建築
大畑本田遺跡	土浦市大畑829-2	465	128	36°12'86"	140°16'16"	20210507		個人住宅建築
神立遺跡	土浦市神立町1210-1	203	185	36°11'37"	140°23'47"	20210512	309.5㎡	太陽光発電設備の設置
中高津西原遺跡	土浦市中高津二丁目1306-1	203	98	36°07'20"	140°18'44"	20210525	7.21㎡	個人住宅建築
永井寄居窯跡隣接地	土浦市永井868-1, 869-1, 1968-3	465	107	36°15'78"	140°18'39"	20210528	11.4㎡	埋立工事
天神平遺跡・坪内遺跡	土浦市神立町1853, 1862-1, 1860-2, 1861, 1865	203	189, 190	(天神平) 36°10'85" (坪内) 36°10'79"	(天神平) 140°22'89" (坪内) 140°22'89"	20210601	339.2㎡	宅地造成
前神田遺跡	土浦市神立町2590-1, 2585	203	194	36°10'95"	140°22'48"	20210617, 18, 21	442.8㎡	宅地造成
下高津小学校遺跡	土浦市下高津四丁目640-1, 640-2, 640-4	203	100	36°07'44"	140°18'00"	20210715	22.2㎡	個人住宅建築
御冥遺跡隣接地	土浦市木田余2474-1	203	199	36°09'95"	140°21'99"	20210715	15.0㎡	個人住宅建築
下高津小学校遺跡	土浦市下高津四丁目2-9	203	100	36°07'61"	140°18'35"	20210728	1.0㎡	学校設備設置工事
松原遺跡	土浦市右穂1374-3	203	28	36°04'86"	140°19'30"	20210806	8.0㎡	個人住宅建築
前神田遺跡	土浦市神立町2588-3, 2588-4, 2589-5	203	194	36°10'92"	140°22'53"	20210812	10.0㎡	宅地造成
西原遺跡	土浦市粟野町1866-2	203	231	36°13'89"	140°19'84"	20210819	9.0㎡	個人住宅建築
形部遺跡	土浦市右穂1112-1, 1112-4	203	469	36°04'94"	140°18'11"	20210825	8.0㎡	個人住宅建築
蟹久保遺跡	土浦市神立町2097-2	203	192	36°10'81"	140°22'72"	20210910	10.36㎡	個人住宅建築
神立八幡遺跡	土浦市神立町2192-1	203	188	36°10'95"	140°22'84"	20210914	15.2㎡	個人住宅建築
西谷津西遺跡	土浦市西並木町3731-1, 3731-4	203	244	36°10'81"	140°18'27"	20210924	24.76㎡	個人住宅建築
下高津小学校遺跡	土浦市下高津四丁目734-10	203	100	36°07'44"	140°18'22"	20210928	9.0㎡	個人住宅建築
形部遺跡	土浦市右穂1111-25	203	469	36°04'91"	140°18'13"	20210930	28.85㎡	個人住宅建築
大畑本田遺跡	土浦市大畑1178	465	128	36°12'78"	140°16'29"	20211028	15.75㎡	個人住宅建築
西谷津西遺跡	土浦市西並木町3731-2, 3731-3	203	244	36°10'84"	140°18'29"	20211105	8.61㎡	個人住宅建築
松山遺跡	土浦市神立町2234-1, 2234-2, 2235-1, 2235-3, 2235-1, 2235-3, 2236-1, 2236-4	203	187	36°11'05"	140°2'28"	20211110, 12	257.5㎡	宅地分譲
土浦城跡	土浦市中央一丁目11-27, 11-38, 943-5, 943-6	203	266	36°08'35"	140°20'03"	20211119	11.3㎡	個人住宅建築
神立遺跡	土浦市神立町1263-1, 1264-7, 1265-3	203	185	36°11'34"	140°23'37"	20211124	9.14㎡	個人住宅建築
ピヤ首遺跡	土浦市中高津一丁目662-2	203	96	36°06'43"	140°18'85"	20211126	105.16㎡	宅地分譲
出シ山遺跡	土浦市上高津1690	203	124	36°07'29"	140°16'44"	20211130, 1202, 3	463㎡	工場建設
矢作遺跡	土浦市矢作84, 85	203	169	36°09'26"	140°15'76"	20211214	3.95㎡	個人住宅建築

所収遺跡名	所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡 番号	北緯	東経			
天神平遺跡・坪内遺跡	土浦市神立町 1852, 1875 - 1	203	189, 190	(天神平) 36° 10' 85" (坪内) 36° 10' 79"	(天神平) 140° 22' 89" (坪内) 140° 22' 89"	20211221	144.9㎡	宅地分譲
谷原門 B 遺跡隣接地	土浦市中 1111 番 1	203	4	36° 05' 00"	140° 17' 18"	20220105	13.0㎡	倉庫建築
天神遺跡	土浦市中 1133 - 1	203	2	36° 04' 91"	140° 17' 19"	20220113, 14	151.5㎡	宅地分譲
土浦城跡(本丸)	土浦市中央一丁目 1	203	266	36° 08' 49"	140° 19' 87"	20220119, 20, 21	3.8㎡	堀跡確認
霞ヶ岡遺跡	土浦市霞ヶ岡町 2199	203	83	36° 06' 07"	140° 20' 25"	20220428	72.75㎡	宅地分譲
小高石橋遺跡	土浦市小高 478 - 9, 10 ~ 13, 15, 17, 19, 22	465	33	36° 14' 26"	140° 14' 61"	20220217 ~ 0303	1036.95㎡	太陽光発電設備の設置
藤沢陣場遺跡	土浦市小高 76	465	31	36° 14' 30"	140° 14' 99"	20220309	8.0㎡	個人住宅建築
永国御冥遺跡	土浦市永国 550 - 4	203	152	36° 05' 90"	140° 18' 37"	20220310	9.0㎡	個人住宅建築
虫掛二又遺跡	土浦市虫掛 284 外	203	277	36° 09' 54"	140° 17' 46"	20220316 ~ 0323	61.26㎡	県営土地改良事業
下高津小学校遺跡(第 5 次調査)	土浦市下高津四丁目 738 - 1	203	100	36° 07' 36"	140° 18' 21"	20210525 ~ 0529	45㎡	個人住宅建築
大畑本田遺跡(第 2 次調査)	土浦市下高津四丁目 829 - 1	465	128	36° 12' 78"	140° 16' 29"	20210707 ~ 0729	70㎡	個人住宅建築
形部遺跡(第 2 次調査)	土浦市右穂 1111 - 25	203	469	36° 04' 91"	140° 18' 13"	20211207 ~ 1214	60㎡	個人住宅建築

令和 3 年度土浦市内遺跡発掘調査報告書

発行日 2023 (令和 5) 年 3 月 24 日

編集 上高津貝塚ふるさと歴史の広場

〒300 - 0811 茨城県土浦市上高津 1843 番地

TEL 029-826-7111

発行 土浦市教育委員会

〒300 - 8686 茨城県土浦市大和町 9 番 2 号

TEL 029-826-1111 (代表)

印刷 菊池印刷株式会社
